

○毛軒寮（穂積五一）

本春來稍々健康ヲ回復セル寮主穂積五一ハ本年二月本郷區森川町一二
四番地ニ下宿屋龍生館ヲ買收三月中旬ヨリ寮生ヲ分宿セシメ目下兩寮
ニ約二十一名ノ寮員ヲ收容專ラ青年學徒ノ鍊成ニ專念シ居ルガ更ニ

板橋區下石神井二ノ一五九一

草牙塾（西村清人外二十四名）

麻布區材木町四一

正氣塾（松昇外二名）

八王子市靈町三ノ二三八

三誠塾（一見始外一名）

ヲ其ノ指導影響下ニ置キ言詞ニ文書ニ極メテ激越ナル口調ヲ以テ時局
ヲ批判慷慨スルト共ニ

- 毛呂清嶽
- 大和正俊
- 矢吹省吾
- 小島玄之
- 西光萬吉
- 越野文雄

等々ノ中央地方ノ同志ト緊密ナル運籌ヲ保チ軍、官、民一致ニ依ル維
新勢力結集ト現状維新勢力興政、翼實會ヨリ與壯ヲ奪還獲得スベク威
烈ナル裏面運動展開中ナリ
而シテ其ノ意圖ノ表ハレトシテ寮主権被五一ハ病繼ヲ押シテ去月十二
日水戸市弘道館ニ開催セラレタル「勳皇救國同志結集座談會」ニ出席
大和及學生多數ヲ助員参加シ座長ヲ勤ムル外去ル七月二十四日駒込中
學ニ同二十六日四谷公會室ニ開催セラレタル翼政主催ノ一億敢闘演說
會ニ同志大和正俊ハ寮員豊島、佐藤ノ二名ヲ同伴傍聴シ翼政ノ反國作
的ナルヲ詰問シテ檢舉セラル、等ノ事實アリ今後凡ユル機會ヲ捉ヘテ
政府、翼政、翼實會ノ否詰ヲ指摘暴露スルモノト認メラル、從ツテ今
後ノ時局推移ノ如何ニ依ツテハ如何ナル舉措ニ出ツルヤモ知レズ鋭意
視察内偵中ナリ

○本國各處對黨在野各團體一一致協力ニ依リテ
本國各處對黨在野各團體一一致協力ニ依リテ
本國各處對黨在野各團體一一致協力ニ依リテ

○皇道翼贊青年聯盟（毛呂清曠）

本團體ハ依然至軒寮ト同一步調ノ下ニ「軍、官、民ノ維新同志即時結集・俗論黨粉砕、似而省別決」ヲ「スローガン」トシ決戦維新ノ即時斷行ヲ言論ニ機關紙「翼贊運動」ニ強調シテ今日ニ推移セルガ特ニ翼贊會、翼壯ノ改組後ハ東條首相ノ思想的性格ノ皆無ヲ論難スルト共ニ翼政會、翼贊會ヲ反國体的翼政黨勢力ノ抬頭トシテ熾烈ナル反擊運動ヲ展開更ニ翼贊會ヨリ翼壯ノ奪還ヲ意圖シ之レガ勢力結集ニ

毛呂 清曠

矢吹 省吾

溝口 勇夫

小島 玄之

大和 正俊

等ノ幹部ハ全國ニ同志ヲ求メテ旅行シ着々其ノ勢力基礎ノ強化ニ努ムル外

六月二十六日ニハ溝口勇夫、世話人格トナリ元八月會ノ同志タル平沼事件關係者片岡駿、中村武ノ出獄慰安會ヲ赤坂溜池所在ノ料亭蟻水ニ同志約三十名ヲ集メテ開催

舊交ヲ固メル等今後ノ動向ニ就テハ逆睹シ難キモノアリ、銳意觀察内

偵中ナリ

尙聯盟委員長タリシ毛白海嶼ニ對シ七月十二日教育召集ノ通達了リ

(八月一日京都伏見第三十七部隊入隊) 委員長及機關紙「眞實運動」

ノ責任者ヲ穂積五一ニ變更スベシ七月十九日夫々其ノ手續了了セリ

...

...

...

...

...

...

...

...

○大日本赤十字會...

○大日本赤誠會ハ橋本欽五郎ノ

黨勢擴張挽回ノ目的ヲ以テ本年四月小石川區後樂園ニ於テ皇國生産者大會ヲ開催セルガ其ノ狀況極メテ低調裡ニ終始シ幹部ニ在リテハ痛ク失望ノ色蔽ヒ難キモノアリテ之ガ對策ニ付キ焦慮スルト共ニ大都市ニ於ケル塾ハ頼ムニ足ラズト爲シ其ノ後專ラ地方農村塾ノ指導強化ニ重點ヲ置キ之ガ運動方針ハ概ネ食糧増産、青年國家建設運動、青少年講習會ノ三點ヲ取り上ゲツツアルガ

(一)食糧増産運動ニ就キテハ

食糧増産ハ大井上農法デアレド

農村塾ハ即時大井上農法ノ全面的實施ダ!

ナル、スロイガンノ許ニ大井上康ノ營養適期施肥法ヲ全面的ニ採用シ全國農村塾ニ對シ普及宣傳ニ努メ或ヒハ本部員ヲ派遣實地ノ指導調査ヲ爲サシメ或ヒハ橋本會長ノ斡旋ニテ大井上康ヲ農林大臣並關係官ト會見其ノ所論ト實情ヲ具伸セシムルト共ニ本農法ノ概論ヲ、パンフレ

ツトニ印刷會員並ニ一般關係方面ニ頒布スル等該運動ヲ積極的ニ展開セリ

(二) 青年國家建設運動

今や人物總交代の時代であり青壯年は自己の力を確信して立ち上り老輩者は一齊に第一線より引下れこれこそ戦ひの至上命令である

トテ 青年國家建設運動を捲き起せ!

必勝戦争國家は青年國家だ!

ナル、スローガンノ下 産者大會終了後六月初旬ヨリ會長以下各幹部ハ全國下部組織ヲ動員シ講演會、演說會ヲ開催、都下ニ於テモ下谷黎明塾、目黒必謹塾、大森一字塾等ノ塾ハ夫々演說會ヲ開催セルガ比較的盛況裡ニ終始セリ

(三) 青少年定例講習會 (東京ノミ)

本部ハ紘塾ニ在リテハ昨秋以來毎月一回都下塾ノ青年分子ヲ本部ニ

招集

之方指導鍊成ニ努メ來リタルガ其ノ内容ハ概ネ時局解説情勢報告等理
念的埒内ヲ出デズ又過激ナル言動モ認メラレザルモ之ニ参加スル者毎
回二十名内外ニシテ比較的熱意ヲ有スル者アリ
塾長雨谷菊夫モ

「漸次本物になつて來た」

ト述懐シ居ル狀況ナルガ未ダ其ノ勢力微々タルモノニシテ活潑ナル活
動ナシ
現在都下塾ハ二〇、結成準備中ノモノ三、ニシテ之等塾中塾運動ニ熱
意アルモノ數塾ニ過ギズ他ハ何レモ名稱ノミノ如キ實情ニアルモノ或
ハ解消ニ瀕セントスルモノアリ

機關紙太陽大日本ニ就キテハ六月以降發行回數四、部數毎回五、〇〇

〇部ナルガ

橋本會長及雨谷塾長ハ每號左記ノ標題ノ下ニ執筆會員ヲ鼓舞激勵スル
ト共ニ會員ノ指導啓蒙ニ努メツツアリ

橋本會長

六月以降ノ政治

英雄的行動

青年國家建設運動ヲ捲キ起セ

世界ハ太陽大日本ヲ仰グ

雨谷藝長

轉廢業者ノ進ム可キ道

新企業体制の建設

會勢大いに張る

食糧増産は勝敗の鍵だ

右論調ハ概本會長ハ政治文化問題藝長ハ經濟・政策問題ニ付キ論述セリ

ガ會長論文中

六月以降ノ政治

ニ於テ

今や人物總交代ダ、青壯年ハ青壯年ノ力ヲ確信セヨ、老輩ハ一齊ニ引キ下レコレ戦ノ命ズル至上命令ダ、逞シイ青壯年ハ戦ニ鍛ヘラレ今や蹶起ノ時ヲ待ツノミ云々
ハ檢閲課ニ於テ注意處分ニ付サル

○東方同志會（中野正剛）談

同會ニ在リテハ本年四月五日付ニテ當分ノ間同會主催ニテ演說會、講演會ハ行チハズ専ラ會員ノ練成ヲ行フノ旨聲明シ

六月二十七日 七月二十五日 ト毎月一回

世田ヶ谷區成城町振東塾ニ於テ會長中野正剛ヨリ日本外史、建武中興ニ於ケル勤皇志士ノ事蹟ニ付テ講義アリタル外七月十五日午込支準ニ於テ三田村代議士外一名ヲ招聘時局座談會ヲ開催シタル外見ルベキ行動ヲカリシガ

第八十二回臨時議會ニ際シ赤尾代議士ノ投ツタル一石ニ依リ六月十九日會長中野正剛ハ斯クノ如キ議會運営ニ於テハ責任ヲ負フ事ヲ得ズト翼政會ニ脫會届ヲ出スト共ニ是ヨリ先キ結成セラレタル八日會ニ入會シタリ依ツテ東方同志會所屬代議士ノ動向大イニ注目セラレタルガ越ヘテ七月二十四日三田村、中村兩代議士モ翼政會ニ脫會届ヲ提出シ會長ト共ニセリ本部ニ在リテハ六月二十一日中野會長翼政會脫退ノ事情ト題スル印刷物二〇〇部ヲ支部其ノ他關係方面宛發送シタルガ内容

ノ個所アリタル爲メ六月二十二日發禁處分トナレリ
又同會所屬理事佐藤吉熊ハ都下立川市制施行最初ノ市會議員ニ最高點ニテ當選次イテ議長候補、市長候補ニ推薦セラレタルモ未ダ就任ヲ見

ス
斯クノ如クシテ同會ハ自ラ窮鼠ノ如ク陥リタカノ感ガアル

○、國粹同盟、(笹川良三)談

大正四年日中親善小冊刊行時日本國ニ於テ國粹同盟田島一八等語

○ 關東國體...

六月四日中野區小瀧町料亭日本閣ニ於テ總裁笹川良一ハ幹部

藤吉男 佐藤榮志

齋藤清亮 新原 太十郎

片桐勝正 吉松正勝

新田贊平 菊池東一郎

共ニ東京市會議員

福島正守 馬越旺輔

中野四郎 井田友平

森俊成 服部寅雄

高野納康 平尾東策

招待シ總裁ヨリ

近ク東京都制ヲ實施セラルレ市會ハ解散セラルルデアラウガ從來ニ倍シ
テ御協力御座捷ヲ賜リ度イヌカニ挨拶ヲ爲シ一同晚餐ヲ共ニシ難談
裡ニ散會シタリ

次イテ

六月五日

蒲田新宿國民學校

六月七日

澁谷公會堂

六月八日

澁橋大久保國民學校

六月九日

豐島長崎國民學校

六月十一日

澁橋第二國民學校

六月十五日

豐島公會堂

等都下ニ於テ去ル五月十二日日比谷公會堂ニ於テ立黨十二週年記念

大演說會ニ於テ爲セルト同様趣旨ノ演說ニ開催相當感銘ヲ與ヘ終了

セルガ是等ハ何レモ來ル都會選舉ノ準備ノ下心アツテノコトニアラザ

ルヤノ感ヲ抱カセルモノガアル

又六月五日山本元帥ノ國葬儀執リ行ナハセラルルヤ同元帥ノ生前タル

昭和十年一月二十四日同元帥ヨリ總裁笹川良一宛發信ノ書翰ヲ石版刷

トナシ元帥ノ偉徳ヲ偲ブト共ニ雄大ニシテ透徹セル達見トヲ稱ヘ山本

魂振作ノ爲メ一段ノ御精勵相仰ギ度シト全國學校官廳其ノ他有力者ニ

約三〇萬部ヲ郵送セリ
又八日會ノ結成ニ當リテハ笹川總裁ハ背後的役割ヲ爲シタリ
又六日會日山本天輔ハ國學館長ニ對シテ「吾等ハ此ノ時ニ於テハ、

○大日本勤皇會ハ田邊宗英ノ談

本團體ニ在リテハ七月十二日日本部事務所ニ於テ武井理事長以下淀橋、
四谷、京橋、板橋ノ各支部長出席シ支部長會議ヲ開催支部ノ整備ト今
後ノ運動展開ニ關シ協議散會セリ
而シテ澁谷支部ニ在リテハ七月十八日、京橋支部ニ在リテハ七月二十
九日夫々勤皇精神昂揚ヲ目的トスル講演會ヲ開催セリ
現下ニ於ケル本部並ニ各支部ハ相互間ニ未ダ統一の組織運営ノ域ニ達
セザル憾アリ從テ本團體ハ當分ノ間之ガ陣容ノ刷新強化ノ一途ニ邁
進スルノ機運ニ向ヒツアリ
惟ア此ノ如キハ其ノ前身タル山梨勤皇會當時ノ宗派的陣容ヲ殆ト其備

踏襲セルト他方首腦部ノ意圖ト全面的ニ融合シ難キ微妙ナル雰囲気ノ
潜在ニ因ル所頗ル多キガ如シ
乍併會長田邊宗英ニ在リテハ其ノ機關紙「報國新報」ニ於テ每號所謂
神政主義ノ立場ヨリ各般ノ事項ニ涉リ論評ヲ掲ゲ以テ直チニ實踐運動
ヘノ發展ヲ示唆スル等之ガ動向相當注意警戒ヲ要スルモノアリ

○東亞問題同志會（和田勳）談

本會ニ在リテハ其ノ後未ダ結社ノ許可處分ナキ爲表面持久戰的靜觀態
度ヲ持シ居ルモ内心ニ於テハ會勢確保ニ相當腐心ノ實相ニ了リ然ルニ
本會ノ員ハ一部石原莞爾ノ狂信的崇拜者ヲ除キ其ノ大半ハ時局ニ不平
不滿ヲ持スル異端的分子並ニ石原顧問ヲ背景トシテ巧キニ政治的野望
ヲ達セントスル不純分子ニ屬シ前者ニ於テハ石原莞爾ヲ欽慕シテ會ノ
盛衰等ニ顧慮スル事ナク實踐的運動ニ突入スル精銳分子ナルモ後者所
謂名利的結合ノ不純分子ニ在リテハ運動衰微ニ傾クヤ自然敬遠的態度

ニ出テ地方支部員等ニシテ相踵イテ離脱スルモノアリ或ハ地方支部ニシテ有名無實ノモノモアリテ漸ク落日ノ兆候ニアリシガ顧問石原莞爾ハ居住地山形縣庄内支部ハ勿論宮城、青森各縣下等ヲ遍歴熱心ニ池本農業政策並ニ東亞聯盟理念ノ啓蒙普及運動ニ没頭スルト共ニ本部ニ於テハ之レガ頹勢挽回ニ腐心シ都下、神田、日本橋、淀橋、荏原以上五支部ヲ一應解消ノ形式ヲ執リ今後地域別職業別ニ班組織トナシ新精銳ナル同志的分子ノ叫合獲得ヲナス態度方針ヲ定メ

1. 六月二十二日本部ニ東京支部懇談會ヲ開催シ支部規約制定並ニ原玉重以下八名ヲ中央參與會員トシテ推薦スル事ニ決定ス

2. 七月二十六日本部ニ淵上辰雄以下二〇名集合シ本部常任杉浦晴男

リ自著「國民組織要綱案」ノ概要ニ就キ説明ヲ聽取セリ

以上ノ如ク只管會勢ノ確保ト陣營ノ整備ニ汲々タルモノアリ一方本會所屬代議士木村武雄、原玉重、菊地養之輔、金子定一等ニ於テハ翼政會唯一ノ異端的存在ナル八日會ニ席ヲ列シ時ニ木村武雄ノ如

キハ之レガ有力ナルメンバトシテ今後自己ノ政治的意欲達成ノ爲種々策奔走スルモノト認メラレ而モ顧問石原莞爾ハ極端露骨ナル反政府反官僚的言動ヲ弄シ或ハ其ノ聯盟ノ主張、民族平等ノ世界觀ニ立脚セル爲半島獨立ノ民族意識ヲ醸成セシムル虞モアリテ之レガ觀察取締ニ對シテハ最も慎重ナル注意ガ要セラルル次第デアル

○大日本一新會（吉田益三）映

最近ノ客觀的諸情勢ハ聖戰完遂、世界維新テフ皇國使命達成上必ズシモ樂觀ヲ許サザルモノアリ宜シク速カニ國內維新ヲ斷行セザルベカラズトシ現内閣ノ性格等ニ對シ惡批判ヲ爲シツツアル狀況ニシテ聊カ焦慮ノ色アルヲ觀取セラル

然レ共從來ヨリノ東條首相支持ノ根本的態度ニ就イテハ改變セルヲ認メズ概シテ政府施策ニ對シテハ協力的態度ヲ持シ時局ノ推移ヲ注視中ニ在リ

主要行動

1. 小冊子發行

六月五日付ヲ以テ本年度全國大會ニ於ケル決議及可決議案並其ノ提案理由等ヲ登載セリ

「必勝銃 生活方針書」ト題スル小冊子發行

2. 擴大協議會等

六月二十六日 於大阪 一新會館開設披露式舉行

六月二十七日 於大阪 總務會開催

六月二十八日 於大阪 全國擴大協議會開催

3. 尊皇攘夷大演說會

七月三日 於日比谷公會堂 聽衆約二、〇〇〇名

4. 會友懇談會

七月十六日 於麹町賽亭 出席者二四名

5. 演說會

其他大阪、西宮、長野、松本、福井、富山等ノ各市ニ於テ時局演說

會開催

ニシテ組織演大運動ニ專念シツツアリ

○ 懇話會（寫生館久）談

概シテ政府施策ニ協力シアルモ現政府ニハ政治性乏シク殊ニ民情ト游

離セル所謂官僚的政治ニ墮シ居ルハ現下政治ノ最大缺陷ナリトシ之レ

ガ是正ノ爲メ眞實ノ民ノ聲ヲ聽キ戰時体制確立ヲ期セムトテ本年四月

以降寫生主幹以下近縣各地ヲ行脚シ其ノ他有力者ヲ交ヘ懇談會ヲ開催

シ來リタルガ引續キ

六月中ニ於テ十八日初二十五日ニ至ル間群馬縣下各地ニ於テ懇談會

ヲ開催主幹寫生能久主事皆川三陸等出席懇談セル外

戰時下學徒ノ爲ラザル心算ヲ聽取シ其ノ心構ニ就キ指導啓蒙ノ要アリ

トシ

七月二十四日 於中央大學 中大生五〇名

七月三十日 於黑龍會本部 慶大生一二名

ヲ集メ主幹葛生能久以下出席懇談シ尙都下各大學ニ於テモ續開ヲ計畫スル等地球ナルモ現實面ヲ捉ヘ而カモ眞ノ民情ヲ把握シ以テ下意上通政治力ヲ推進セムトシツツアリ動向注意中

○國体擁護聯合會（入江種矩）談
本會ニ在リテハ去ル第八十一帝國議會ニ際シ戰刑法改正案ヲ繞リ熾烈ナル反對運動ヲ展開シタルノミニシテ其ノ後ハ格別ナル活動ナク推移セルガ一部幹部ニ在リテハ現政府ヲ快シトセズ監視的態度ヲ以テ臨ミ寧口反東條的傾向ニ在ルヲ認メラレ其ノ動向注意中

○天關打開期成會（滿井佐吉）談

客年來會ノ使命達成ノ爲メニハ先ツ組織ノ擴充ヲ期セザルベカラズト爲シ關西、九洲、四國、東北等全國的ニ演說會ヲ開催シ一方毎月一回機關紙「大機」約五、〇〇〇部ヲ發行會ノ趣旨普及ト共ニ其ノ擴大強化作ヲ圖リ又毎月一回本部ニ定例會ヲ開催、活動方針ヲ樹立實踐ニ移シツツアリタルガ本年四月二十九日理事長滿井佐吉地方遊說中發病以來病臥中ニアリシ爲メ自然其ノ運動不活潑トナラザルヲ得ザルニ至レリ其ノ運動目標トスル所ハ大東亞戰爭完遂ニ依ル世界維新、神人一体ノ國內体制整備、特ニ惟神經濟ノ確立ニ在リトシ尙之レガ目的完遂ノ爲メニハ政治力ヲ結集スルノ要アリト爲シ客年末

「天關打開議員聯盟」

ヲ結成現在貴族院議員一名衆議院議員三四名ノ加盟者アリ而シテ其ノ動向ハ統制經濟中小商工業者ノ轉廢業問題等政府施策ヲ批判スルコトアルモ徒ラナル政府攻撃ヲ慎ミ飽ク迄建設的ニシテ國策ノ強力遂行ヲ要望シ協力的態度ヲ持シ居レリ

最近ニ於ケル主要行動トシテハ

1. 上下關支部主催演說會

六月三十日ヨリ七月十一日ニ至ル間山口縣下五ヶ所ニ於テ

「創立三周年記念講演會」

開催

2. 福岡支部主催演說會

七月一日ヨリ同月末日迄福岡縣下各地ニ於テ

「時局大演說會」

開催

3. 向島支部結成準備會

七月五日向島區吾廬東五丁目官田俱樂部ニ於テ支部結成準備會開催

出席者二〇名近々役員決定ノ上支部結成ニ邁進スルコトヲ申合ヌ

4. 大阪支部幹部打合會

七月十九日大阪市西區北堀江上通四丁目双葉亭於テ幹部會開催

會勢擴張、運動方針等ニ就キ打合セヲ爲ス

等ニシテ專ラ會勢擴張運動ニ主力ヲ傾注シツアリ

本會は、自今以來、漸次擴張の途程を定めて、各地に支部を設立し、同志を募集し、

其の活動の中心を、政治的運動に在らしめ、社会主義の宣傳に力をつくすこととす。

茲に、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、諸同志の意見を

聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

諸同志の意見を聴き、之を打合はせしむるに當り、本會の活動方針を、大體として決定せしむるに當り、

○やまとむすび（佐々井一晃）

本國體ハ昭和十六年十一月以來主張ノ「盟旗千本支部一千」ハ本年、年次大會ニ於テモ強調シ六月ノ機關紙ニハ「我等の戦ひ取るべき組織運動の課題」ト題シ歴史ハ常ニ必然性ニ動キ昭和維新達成ノ時モ必ス來ル此ノ時維新中核體トシテ立ツベキ國民層ノ結成ガ必要ナリ、やまとむすびハ此任務ヲ果サンタメ結成セルガ組織體制ハ尙不十分ト論シ全國民ヲ動員シ此ノ建直シノ大業完遂ニ組織力無キ結盟ハ無力ナリトテ組織ノ強化擴大ノタメ兵庫、神奈川、福島各縣、京都府、東京都（主トシテ城南地區）ニ於テ演說會、座談會等ヲ開催、支部ノ結成並會員ヲ獲得シツ、ア

本國體ハ表面政府支持ヲ標榜シ山本元帥戰死ニ際シテハ直チニ聲明ヲ發表靈前參拜スル等愛國敢闘精神高揚ヲ計リタルガ現政府ノ政策ニ對シテハ官僚的性格方式ヲ嚴守スル政府ハ行過キヤ不必要ノ制限部面アリ政府ハ表面ノミ整備シテモ眞ノ必勝不敗ノ決戰體制樹立ハ出來ナイ、克ク國

内事情ヲ大膽卒直ニ國民ニ知ラシメタ上愛國陣營ノ建設的獻策的言論ハ例ヘ官僚ニ捕手アリト雖モ之ヲ助長保護スベキナリトテ絶對支持ニ非スシテ批判的態度ヲ持シ居リ今後ノ動向注意ヲ要スルモノナリ

○大日本皇道會「赤尾 敏」

右「四体」ニ於テハ東條内閣支持ヲ表明スルト共ニ當面ノ運動眼目ヲ「共產主義撲滅」並ニ「眞生活運動實踐」ニ置キ、隨時各種ノ時事問題ヲ捉ヘ關係當局ヲ訪問シ進言、要請ヲナシ或ハ演說會、日曜講演會ノ開催又ハ「ドラポスター」、進言書、要請書、建白書、機關紙「皇道」(毎號五、〇〇部)等ノ發行頒布ヲナス等ノ方法(言論、文藝)ヲ通シ實際活動ヲナシ來レルガ、

六月ニ入ルヤ其ノ主張ヲ「國民總力ノ結集ニ依ル生産力增強」ニ集中シ此ノ主張下ニ前記運動眼目ヲ表現セント企圖スルニ至レリ、右意圖ノ許ニ六月五、六、七、八ノ四日間、深川、本所兩區内ニ於テ夫々「必勝体

制確立演說會レヲ開催（其ノ間赤尾敏論旨注意一件）スル等ノ行動アリ
又主幹赤尾敏ハ其ノ間、該會内ニ於ケル愛國陣營關係代議士ノ結集ヲ策
シ之レニヨリ該會勢國氣ノ指導權確保ヲ目論見、延テハ之ヲ右団体ノ運
動ト連繫セシメムト國粹同盟主幹、笹川良一等ト相謀リ六月十四日赤坂
三會堂ニ發起人白鳥敏夫、松本治一郎、松永壽雄、江藤源九郎等ト會同
シ出席者ノ贊同ヲ得右趣旨ニ基ク「八日會ナルモノヲ結成シタルガ、錄
テヨリ第八十二臨時議會ノ會期三日間ノ短カキニ失スル點ヲ強調シツ、
アリタル赤尾敏ハ何等發言ノ機會ヲ與ヘラレザル處ヨリ六月十五日第八
十二臨時議會本會議開會直後東條首相ノ施政方針演說直前、此ノ機ヲ失
シテ他ニ該會内ニ於ケル發言ノ機再ビナシト斷ジタル處ヨリ突然起チ上
リ議長ノ許可ナクシテ

「會期三日間ノ短カキニ失スル旨」ノ發言ヲナシタル爲議長ヨリ退場ヲ
命ゼラレ即日興政會ヨリ除名セラレ後議會ニ於テ微罰（譴責）處分ヲ受
クルニ至レルガ本事件ガ内容ノ發表ナキタメ一般人ニ誤解ヲ受ケタリト

テ自己ノ選出地タル東京第六區内ニ於テ之ガ釋明ヲナスベク六月二十六日ヨリ七月八日ニ至ル間「聖旨奉戴、一億敢闘、議會報告演說會」ナル名稱ユテ、荒川、向島、城東、江戸川、葛飾、足立、豊島、板橋、王子ノ各區内ニ於テ前後十四回ニ亘リ演說會ヲ開催シ同席上夫々「東條内閣絶對支持」ノ態度ヲ表明スルト同時ニ議會ニ於ケル前記發言問題ノ釋明ヲナシ、更ニ一億敢闘ヲ強調シタル外七月十七日赤尾敏出身地タル愛知縣名古屋市ニ至リ同市公會堂ニ本部主催ノ同趣旨ノ演說會ヲ開催スル等其ノ行動極メテ活潑ナルモノアリ東條内閣絶對支持ヲ表明スルト雖内心必ズシモ贊意ヲ表スルモノニアラス、眞政會ヲ批難攻撃シテ巧ミニ取締ノ銳鋒ヲ避ケ居ルモノト認メラレ、且ツ最近ノ歐洲情勢ノ急變ニ痛ク刺激セラレ居ルヲ以テ、情勢ノ推移如何ニヨツテハ反政府、蘇聯打倒ニ向ツテ運動ヲ展開スル危險充分ニ觀取セラレルヲ以テ今後ノ動向ニ就テハ相當留意スベキモノアリト認メラル。

卷之六 牛馬ノ事

牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事

牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事

牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事

牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事

牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事

牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事

牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事

牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事

牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事

牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事

牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事

牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事 牛馬ノ事

NV M. Fujii
In except for
Sep 2

Record of the action of Metropolitan
Police Office.

(April 22 '43 - July 25 '44)

I Inspection and control of reform movement.

1. General Condition.

2. Public funeral of dead in action.

3. Boycott of Satomi-idea.

4. Vine agricultural system.

5. The 82nd Diet.

6. War situation.

7. Incidents and conditions of trial.

① Trial of Hiranuma Incident

Among Witnesses

Matsuoaka Yosuke

Shiratori Toshio

Shiratori was questioned, (October, 18, '43 at
35th trial) about the outlines of Japanese
Diplomacy; Conditions and directions
of Japanese diplomacy at the time
of 2nd Konoé Cabinet.

II Condition inspection and control
of important reform campaign.

2.

I. Activities of important parties

① Dainippon-Sekisei-kai

(President Hashimoto Kingoro)

② Yamato no Mitsuhi

Chief Sasai Iccho

The principle of this party is,

1. Propaganda of the party's principle over
2. Great East Asia Sphere.

2. Imperial administration of the world.

Sasaki declares himself that he met
Koiso Kuniaki, Premier, several times when
he was a governor of Korea and is very
intimate with him.

III Treatment of affair about forming society.

III) Inspection and control about religion.

V Direction to the local police.

1.
#2/64

M. Fujii

The summary of the activities of "Dai-Nippon Sekisei-kai" (page #6)

President HASHIMOTO KINGORO

This party, under the fundamental principle of so-called "Declaration of Kingoro Hashimoto," was developing the lively reform movement. However, according to the break-out of the Pacific war, the goal of the party, "to Attack America and England, and advance to the south" was so far reached. Besides, Hashimoto was elected a member of Parliament and joined the Imperial Rule Assistance Association, which caused the public dislike against his political ambition, and accordingly the influence of the party was gradually decreasing, and they were trying every means to recover it.

January 7th and 8th 1944, Hashimoto with 400 members went to the Ise Shrine to offer the fervent prayer for the victory of Imperial troops and for the increase

of productions.

Hashimoto, taking the initiative himself held the local farmer's meetings in various places through the country and made propaganda of Osei-Agricultural System, which caused conflict between the local agricultural authorities and the party.

May, 15, '44, Hashimoto published, on the "Sun, the Great Japan," an article under the title of "Again, I appeal to the public about the Osei Agricultural System", in which he opposed the campaign of technicians of agricultural commerce and industry, by saying "Their unutterable rash action and their insidious deeds stir my blood."

After the fall of Saipan, July, 26 '44, Hashimoto published, the declaration of the national movement to save the country by offering one's body.

昭和十九年八月

新成

自昭和十八年四月二十七日
至昭和十九年七月二十五日

特高第 三 號

目次

| | | |
|-----|------------------|----|
| 一 | 革新運動ノ視察取締 | 一 |
| (一) | 革新陣營ノ一般動向 | 一 |
| (二) | 英靈公葬問題ヲ繞ル運動 | 二 |
| (三) | 里見學說排遣ヲ繞ル運動 | 六 |
| (四) | 大井上農法ヲ繞ル運動 | 八 |
| (五) | 第八十二帝國議會ヲ繞ル運動 | 一〇 |
| (六) | 戦局ヲ繞ル動向 | 二 |
| (七) | 事件關係及公判狀況 | 六 |
| 1 | 事件關係 | 六 |
| (1) | 大以塾同人野村辰夫ノ葬式妨害事件 | 六 |
| (2) | 大以塾同人野村辰夫ノ傷害事件 | 六 |
| (3) | 首相官邸前目刃未遂事件 | 七 |
| (4) | 皇道真寶青年聯盟關係 | 八 |
| (5) | 勤皇まことむすび維新公認社關係 | 四 |

| | | |
|--------------|-------|----|
| 4. 國粹同盟 | | 五〇 |
| 5. やまともすび | | 五三 |
| 6. 天國打開期成會 | | 五五 |
| (二) 急進分子ノ動向 | | 五八 |
| 結社事務取扱状況 | | 六八 |
| 宗敎運動ニ對スル視察取締 | | 六八 |
| 警察署ニ對スル指示 | | 七五 |

革新運動ノ視察取締

(一) 革新陣營ノ一般動向

大東亞戰爭勃發以來一般的ニ熾シテ平穩ナリシ革新陣營ハ大戦果ヲ處
理スル占領地帯派遣ノ人學問題、昭和十七年春施行ノ衆議院議員總選
舉ニ於ケル推薦、非推薦ノ問題、選舉後ニ於ケル實質政治甘結成ノ問
題等ヲ契機トシテ次第ニ政府ノ諸施策ニ對シ批判的態度ヲ持スルニ至
リタルガ、昭和十七年夏ソロモン諸島ニ於ケル敵反攻ノ熾烈化ガ米國
ノ立直リト戦局ノ巨大化ヲ感得セシムル情勢ニ立至ルヤ一部ニハ此ノ
戦局打開ノ爲メニ必須條件タルベキ生産ノ飛躍的増産ガ不振ナルハ
政府ノ戦争指導ニ誤リアルガ爲アリトテ不滿ヲ表明シ次第ニ反政府的
券意氣ヲ醸成スルニ至レリ、斯ル情勢下ニ於テ昭和十八年春帝國議會
ニ提議セラレタル戦時刑罰特別法改正案ハ之等急進分子ヲ著シク刺戟
スル處トアリ其條内閣ハ暴府化スルモノトシテ真正面ヨリ之ガ反對選
動ヲ展開スルニ至レリ

リタルモ内實ハ却ツテ潜行的トナリ本年二月ニ至リ内閣改造、軍政
政策ノ施策ヲ獎勵トシ不様文書、不穩投書、不穩落書等相次イテ現ハレ
社會不安愈々増大シ傾向ニ在リ一方大東塾同人ノ中河與一傷害事件、
同塾生ノ徵用及退塾事件、國粹同盟内ノ同志殺害事件、大東塾生ノ古賀
元帥ノ葬式紛争事件、眞相官邸則ニ於ケル自殺未遂事件等激發シ動情
騷然タルモ亦有馬タリ、然レドモ之等事犯モ其ノ惡質ナルモノ大半ノ
松尾ヲ以テ爲シ是等ハ坐控セラレタリ

然ルニ二月二十五日、タイバン島ヘノ敵上陸向十六日北九州ヘノ敵海軍
襲等眞ニ巨大化セル戦局ニ反政府的乃至政府ノ責任追及的言動ハ儼然
表面化シ巨匠方面ヲ歴訪シテ「東條内閣ヲ速カニ退陣セシムベシ」ト
極言スルモノアリ與實政治各方面ニ在リテモ作戦及ビ政治指導ニ對シ
活潑ナル論議展開セラル、情勢トアリ妖氣ハ低迷シテ一瞬即眞ニ政
患アル情勢トナリタルヲ以テ或モ觀察取締ノ徹底ヲ期シ今回内閣更
迭ニヨリ斯ル情勢ガ一應緩和アル、ニ至ル迄治安ヲ完フシ得タリ、

口英皇公葬問題ヲ纏ル運動

1 運動ノ發端並ニ其ノ経緯

本運動ハ我ニ祭政一致與實會ニ於テ

「現神ニ醜ノ御指トシテ歸一セル英皇公葬ハ總テ皇國最高ノ祀典タ

ル國式國體（御式）ニ準據スベシ

ト提唱セルヲ發端トシテ各方面ニ意外ノ反響ヲ呼ビ爾來御道各宗派

教化團體ハ勿論、大東塾、大日本一新會、大日本勸皇會、皇國同志

會等國家主義厚營ノ支持共鳴スル所ニテ我呼應シテ或ハ獨自

立場ヨリ又ハ共同布陣シテ請願、進言其ノ他文書活動等引續キ果敢

ナル運動ヲ展開中アルガ、之レニ對シ一方大日本佛敎會、其ノ他ノ

佛敎團體ニ在リテハ憲法上ノ信敎ノ自由ヲ強調シ公葬ノ場合ト雖モ

英皇若シクハ聖主ノ宗派ヲ尊重シテ自由意思ニ依ツテ決スベキヲ強

制スベキニ非ラストノ主張ヲ堅持シ反動的運動ニ出テタル爲メ問題

ハ擴大錯綜シテ御佛兩派ノ對立抗争アリ又一部ニハ之ヲ契機トシテ

宗敎進新運動ヲ興ルニ至リタリ

而シテ近時皇國ニ於テハ皇國主義ノ發達ニ對シテ皇國主義者ハ

皇國主義者ハ皇國主義者ニ對シテ皇國主義者ハ皇國主義者ニ對シテ

皇國主義者ハ皇國主義者ニ對シテ皇國主義者ハ皇國主義者ニ對シテ

皇國主義者ハ皇國主義者ニ對シテ皇國主義者ハ皇國主義者ニ對シテ

皇國主義者ハ皇國主義者ニ對シテ皇國主義者ハ皇國主義者ニ對シテ

皇國主義者ハ皇國主義者ニ對シテ皇國主義者ハ皇國主義者ニ對シテ

ニシテ大東塾員ノ古賀元帥海軍葬妨害事件並ニ首相官邸前ニ於ケル
切腹未遂事件ヲ見タル等其ノ動向極メテ注意ヲ要スルモノアリ引續
キ銳意視察シ來タリタルガ昨年四月以降ニ於ケル其ノ主要運動友ノ
通リアリ

2 運動ノ概況

(A) 祭政一致眞實會(一條實孝)主唱國體トシテ續祭ニ英靈公葬問題
懇談會ヲ開催シ同志獲得ト國家運動ニ專念スルト共ニ第八十四通
常議會ニ際シテハ總司公奮ヲ通シテ貴族院ニ赤尾代議士ヲ通シテ
衆議院ニ夫々英靈公葬ノ形式統一ニ關スル請願書ヲ提出セルガ孰
レモ審議未了ニ終リタルニ飽氣初志ヲ貫徹セシメベク其ノ後ニ於
テモ當面唯一ノ運動目標トシテ本件ヲ取擧ゲ相當活潑ナル運動ヲ
展開シ來タリ、本年六月二十六日

「禊祓、眞魂、御拜待、勸告及徹底ニ關スル件」ト題シ公葬問題ニ
言及セル請願書ヲ首相、內相、文相、大政眞實會其ノ他關係方面
宛郵送セリ

(2) 大東塾（影山正治）

最ニ強硬ニ本問題ヲ主張シ機關紙月刊「大孝」ニ連載強調スルトハ
共ニ維新的立場ニ於テ之レガ實現ヲ、悉願熟慮シ居ルモノニシテ
其ノ特異事項ヲ概記スレバ

イ、本年二月十一日影山正治以下六十五名ハ宮城前ニ參進聖戰貫徹

、維新成就、忠靈公葬神式統一促進祈願祭ヲ舉行ス

ロ、同五月十二日古賀元帥ノ海軍葬ガ築地本願寺ニ於テ佛式ニ依リ

執行セラレ、ヤ

同塾同人 野村辰夫

當 二十七年

ハ痛ク憤激シ身ヲ挺シテ佛式執行ヲ阻止シ殺サレ、事ニ依ツ
テ公葬ノ神式統一ヲ成就セシムル事ヲ決意シ、大藏省前ニ於テ
突然葬列ノ前面ニ立塞リ葬式妨害ノ學ニ出テタル爲直チニ現場
ニ於テ檢舉取調ノ上同十七日刑法第百八十八條葬式妨害被疑者
トシテ東京刑事地方裁判所檢事局へ送致セリ

ハ同七月十五日午前六時二十分頃

同塾假入塾中ノ

福

本

美代治

當三十九年

ハ首相官邸正門前ニ於テ天津のりと及維新成就ノ公葬神式統一
ヲ熱望セル上申言ヲ讀唱セル後、所持ノ七首ヲ以ツテ自刃セン
トセルヲ以ツテ同官邸警備員ニ於テ檢舉目下當課ニ於テ取調中
アリ

(3) 大日本一新會 (吉田益三)

昨年四月全國大會ニ於テ今後ノ運動目標ノ一トシテ本件ヲ採擇シ
又昨年五月二十二日瀨野川公會堂ニ開催ノ米英擊滅演說會ニ於テ
吉田益三八英華公葬ノ神式統一問題ヲ強調セリ
又海軍施設部ノ安請ニ基キ南方ヘ派遣セラレタル會員村上吉三郎
外一〇名ノ戦死公表ヲ極トシ海軍合同葬ハ神式ニテ執行サレ度
キ旨ノ進言書ヲ本年五月十九日吳鎮守府司令長官並ニ同施設部
長宛郵送セリ

(4) 皇國同志會 (松永 材)

本會ハ會員ニ神官神職ヲ擁シ居ル關係上常ニ強硬意見ヲ主張シ
昨年七月五日滋谷區大日本神社會館ニ於テ理事會ヲ開催シ公葬問
題ニ就テ意見ヲ交換爾來主幹者松永材ハ各地方ニ於テ排佛論的
神式統一ヲ強調同志獲得ニ奔走爲シツ、アリ

(5) 葦 牙 齋 (階掛正浩)

本會ニ在リテ七熱心ニ神式統一ヲ高唱シ常ニ祭政一致眞實會主催
懇談會ニ參會、同志的運業ノ下ニ運動ニ没頭スルト共ニ昨年六月
二十七日神式統一ニ關シ神社院當局ノ態度詳明方ヲ要望セル進言
書約五〇〇部ヲ作成關係方面宛發送セリ

(6) 文書活動

1. 大日本一新會 (吉田益三)

昨年十月六日付機關紙「一新」ニ於テ「神葬祭問題に就て」ト
題シ

2. 大日本勸皇會 (田邊宗英)

機關紙「報國新報」第一〇五六號ニ於テ「佛敎公葬の怪」ト題

題シ

ハ、維新公論社（芥川治郎）

機關紙「維新公論」昨年五月號ニ於テ「再び公葬問題に就て」ト題シ

ニ、皇道日報社（福田素劍）

機關紙「皇道日報」ニ於テ

「公葬問題の考察」並ニ「公葬式反對に百萬圓とは眞平」ト題シ

孰レモ相當尖銳的ナル論評ヲ加ヘ佛敎界ノ覺醒ヲ促スト共ニ當局ノ善處方ヲ要望セリ

ハ、神道關係者ノ功同

神道關係者ニ於テハ按ネテヨリ本問題ヲ強硬ニ主張シ來タレルガ平田盛胤、野尻祐通、土屋修等ニアリテハ國家主義傳播ノ運動ニ呼應、有機的組織ヲ下ニ強力ナル推進力ヲ結集スベク昨年七月二十日神道神社内ニ有志一六名參集懇談ノ結果全國神道關係者ニ呼

掛ヶ等固アル製等下ニ真刻アル運動ノ展開方ヲ決定シ「憂國の志士に懇ふ」ト題スル冊式統一ヲ要望セル印刷物ヲ關係方面宛送セリ

3 反對運動

大日本師範會（會長酒井日慎）

本會ニ在リテハ冊式統一問題提唱セラレ、ヤ其ノ善後對策ニ腐慮シ
變ニ「公葬方式制定に就て」ト題スル請願ヲ爲スト共ニ機關紙「日
本師範」四、五月號ニ於テ祭政一致與實會ニ於テ第八十四議會ニ提
出セル冊式統一ノ請願要旨ヲ選載シテ審議未了ノ事實ヲ周知セシメ
暗ニ師範徒ノ結束ヲ要望セリ

里見學說排擊ヲ繞ル運動

本問題ハ皇道日報社主幹福田狂ニガ日蓮宗ノ排擊運動ニ當リ派生的ニ取上ケ居リタルニ過ギザリシガ其後「皇國運動聯盟」ハ皇國運動同盟ト改稱シ伊藤力用「日本信仰協會」加藤一夫等之ニ合流嘗テ「皇國擁護運動」ハ日本國體學會主幹里見岸雄ノ思想ノ糾弾運動ニ轉化シ芝區田村町所在虎ノ門ビル内ニ里見問題研究所ヲ設置、里見問題糾弾運動ノ實行委員トシテ

元傳 剡莊

寺田 裕次郎

皇道經濟研究所

神保 幸三郎

勤皇烈士顯彰會

柳町 茂道

等外十四名加ヘ毎月數次ニ涉リ實行委員會ヲ開催或ハ各主宰國體ノ機關紙ニ依リ糾弾シ又ハ「パンフレット」ニ依リ筆誅ヲ加ヘ又福田狂ニハ里見著書「天皇ノ科學的研究」ヲ不敬罪、同「國體ノ研究」ハ日本政治ノ國體構想」等ハ治安維持法第一條ニ該當スルモノアリトシテ東京刑事地方裁判所ニ告發シシガ二万里見岸雄又福田ヲ名譽毀損並業務

妨害罪トシテ告訴スル等熾烈ナル運動ヲ展開シ來リ折柄第八十一議會
閉會アレ所謂政治季節ニ入ルヤ里見非難運動ハ俄然活況ヲ呈シ勢ヲ
少所橋田文相ノ責任追求モ亦止ムヲ得ズトナシ革新議員側ニ於テハ對
議會策ヲ畫シタルモ東京都制戰刑法、推薦選舉問題等ニ焦點ヲ集中シ
タル結果本問題ノ議會反映策ハ奏効スルニ至ラズ其後之ガ糾彈運動ノ
具體的目標トシテ

一 里見君等ノ殺禁處分

二 博士號ノ撤奪

三 刑事訴訟ノ要求

四 立命館大學教授ノ罷免

等ヲ表面的熾職トシ熾烈ナル運動ヲ展開シ來リタルモ昨年四月初旬里
見ノ博士論文タル「國體法ノ研究」ハ一部削除處分ニ附セラレ、二三
リ且四月下旬内閣改造ニ依ル橋田文相ノ更迭トアルヤ一部穩健派ニ在
リテハ一應吾等ノ運動奏効セリトシテ稍々軟化ノ兆アリタルモ運動
推進力タル寺田稻次郎、柳町茂道、伊藤力甫等ニ在リテハ肅學並ニ
體思想明徹ノ立場ヨリ飽迄里見思想ヲ根絶スルノ要アリトアシ五月

一 旬寺田稻次郎外二名ハ文部省ヲ訪問シ該問題ニ對スル當局ノ所信ヲ打
珍スルトコロアリ次テ寺田稻次郎、伊力甫ノ兩名ハ立命館大學ニ出
頭シ

一 里見教授ノ能免

ニ學位取下ゲノ申請

ニ社會的責任ノ陳謝

等ヲ提示シテ強硬ニ之ガ貫徹ヲ圖ル所アリタルガ斯ク時既ニ立命館大
學側ニ在リテハ文部當局其他四圍ノ狀勢ヲ顧慮シテ里見教授ヲ促シテ
自發的ニ休職願ヲ提出セシメ居リタルタメ彼等ノ目標ノ大半ハ此處ニ
消滅シ尙且里見問題研究所ニ於テハ五月中旬ヨリ其ノ中核体タル皇國
運動同盟ニ内訌ヲ生ジ主幹者伊力甫ト總務石山正夫トノ二派ニ別レ
テ石山派ニ在リテハ主幹者伊力甫ヲ除名處分ニ附シ伊力甫又一部有志ノ理
學會ノ議決ニハ承服シ難シトアリ寺田稻次郎、内田正巳等ノ應援ニヨ
リ相抗争スルニ至リ六月初旬迄ニ同志ヲ擁シテ分裂シ尙且前記告發告
訴事件ハ七月初旬ニ至リ何レモ不起訴處分ノ通告ニ接スル等ニ依リ里

見問題ノ追撃戰ハ昔日ノ條テク漸次沈滞ノ傾向ヲ辿リ僅力ニ九月初旬
實行委員長寺田稻次郎名儀ヲ以テ中川立命館大學總長ニ對シ里見岸雄
ノ博士號進薦取消ノ申請並大學當局ノ謝罪ヲ要請スルト共ニ里見ニ對
シテ七博士號返上ヲ警告セル旨ヲ夫々郵送スル等ノ事アリテ大學當
局ニ於テハ面談ヲ要望シ來リタルモ實行委員側ニアリテハ今更其
ノ要アリトシテ一蹴シタルモ爾後逐次運動ハ底調化シ目標ヲ國民學校
初等科國史教科書改訂問題等ニ專化シ之ガ運動ハ沈靜シタリ
一万里見側ニ在リテハ著書「國體法ノ研究」ノ削除處分ニ遭遇内心憤
滿ノ情ヲ洩シツ、七四國ノ狀勢自己ニ不利ナルヲ察知六月初旬立命館
大學ニ休以願ヲ提出スルト共ニ各種講演會ノ出席ヲ拒否シ專ラ謹慎的
態度ヲ持シ、念願タル「國體法」ノ大成ヲスルト標シ之ガ執筆ニ熱中
只管時派ノ推移ヲ觀望スルニ至リ。

(四) 大井上農法ヲ繞ル運動

1 大井上農法ヲ運動面ニ採用セル革新團體

ハ黑龍會、大日本赤誠會、東亞聯盟同志會及農村文化研究會ノ四團體ニシテ其ノ運動目的ハ何レモ緊迫セル食糧事情ノ根本的打開ノ方途トシテ飛躍的増産ニヨルノ外ナク夫レニハ本農法ノ全國的普及アルノミトナシ活潑ナル運動ヲ展開シ來リタルガ其ノ運動方法ニ於テハ相互ニ連繫ナク獨自ノ行動ヲ採リ居ルモノニシテ以下其ノ運動面ニ於テハ先ツ本農法ヲ運動面ニ採用スルニ至リタル助機ト運動目的ハ食糧増産ノ爲メ純眞ニシテ眞摯ナル意圖ノ基ニ本運動ヲ展開セルモノニシテラサルモノニ大別サレ黑龍會ハ前者ニ屬シ大日本赤誠會及東亞聯盟同志會ハ後者ニシテ其ノ中間的存在トモ云フベキモノニ農村文化研究會ヲ舉グルコトヲ得

(1) 黑龍會

昭和十四年頃ヨリ食糧問題ノ重要性ヲ取り上ゲ當初出所放ニ配給ニ關スル適正ナル統制ヲ主張其ノ後戰爭ノ長期化ヨリ食糧ノ窮迫スル

ニ及ビ本問題ノ解決ハ主要食糧ノ大增産アルノミトナシ其ノ根本策樹立ノ爲メニ農事關係者ト連絡之ガ調査研究ニ努メ居タリシガ昭和十七年ニ至リ大井上農法ノ主唱者大井上康ヲ知ルニ及ビ爾來本農法コソ食糧問題打開ノ唯一ノ方法ナリトシ之ヲ支持普及宣傳ニ努ムルニ至リタリ

(2) 大日本赤誠會ハ

大東亞戰爭勃發ニヨリ從來主張シ來レル「討英米南進斷行」ガ現實化シ當面ノ運動目標ヲ失ヒタル結果會勢頓ニ沈滯シ其ノ局面打開策ニ苦慮シ居リタリシガ偶々昭和十七年九月本部審議員高次昇ノ大井上農法ヲ紹介スル所アリ之ヲ同會ニ於テ檢討セルニ宣傳價值充分アリトノ確信ヲ得ルニ至リ依テ之ヲ運動面ニ採リ上げ爾來食糧増産ヲ強調スル一面會勢ノ挽回擴張ノ具トシテ宣傳普及ニ努ムルニ至リタリ

(3) 東亞聯盟同志會ハ

新會員ノ獲得目標ヲ都市ヨリ地方農村ニ求メ昨昭和十八年二月八日「昭和維新論」ニ農村ノ革新ヲ新ニ取り擧ゲ適正農家ノ建設竝ニ農

村ノ工業化型成ニヨリ都市ヲ解体シテ農工一體眞民皆農ヲ以テ其
ノ基本的指導原理トナシ之方運動展開ノ爲メ純眞ナル地方農村ヨ
リ會員ヲ獲得センコトヲ企圖シ其ノ手段トシテ本農法ヲ採納シタ
リ

(4) 農村文化研究會ハ

農村ノ文化的新使命ヲ強調從來ノ經濟面ニ於ケル消極的補助的役
割ヲ脱脚シ農村自体ノ積極的本體的地位確立ヨシ農村ノ生クベキ
道ナリトナシ昭和十六年六月本會ヲ創立本運動ノ具體的指導方法
ヲ農業技術昂揚ニ置キ大井上農法ノ主唱者大井上康ヲ代表總務ト
ナシ本農法ノ普及ヲ唯一ノ運動トシテ活潑ナル運動ヲ展開シ來レ
リ

3 次ニ運動ノ具體的經過ヲ觀察スルニ前述ノ如ク本農法採用ニ至レル
動機ヲ異ニスルヲ以テ各團體共ニ連繫ナク各々獨自ノ行動ヲ採リ本
農法普及ノ方法トシテハ右四團體共ニ主トシテ地方農村ニ於テ講演
會、座談會ヲ開催或ハ文藝ニヨル宣傳普及ニ主力ヲ傾注セリ

其ノ運動概要次ノ如シ即チ黑龍會ハ本年五月十九日「榮養週期良法
實施に關する概況」ト題スル大井上良法ニ依ル増産成績ヲ掲ゲ該良
法ヲ賞揚セル印刷物約一〇〇部ヲ作成農商省其ノ他關係官廳竝ニ大
政翼贊會農事團體ニ向ケ郵送シ次チ本年六月七日「決戰食糧問題解
決要訣」ト題スル大井上康口述ノ榮養週期良法ヲ解説セル印刷物約
一八、〇〇〇部ヲ關係官廳及近縣良家ニ農業團體ヲ通ジテ頒布シ
大日本赤誠會ハ機關紙「太陽大日本」ニ昭和十七年九月二十五日發行
ノモノ以來每號技術的解説竝成績記事ヲ掲載シ活潑ナル普及宣傳ニ
努メ居リタルモノニテ昨年秋以來農林當局ヨリ本良法ノ無價値ヲ指摘
セラレ運動普及ニ一頓挫ヲ來タスヤ爾來講演會、座談會或ハ機關紙上
ニ於テ本良法ニ反對セル農業技術官ヲ誹謗論難シ本年四月二十三日
本部幹事大橋三郎外一名ハ良相官邸ヲ訪問秘書官ニ面接大井上良法ハ
飛躍的増産技術ノ最ナルモノニ付キ即時本良法ヲ採納サレ度キコトヲ
主張セル「建白書」竝ニ鑿ニ農林技術官ヨリ本良法ニ對シ反對的立場
ヲ明ラカニシタルニ對シ大井上良法ノ優秀性ヲ固執シテ大井上良法ノ
主唱者大井上康ト本良法ノ價値ナキ事ヲ主張セル農林技師鹽入又三郎

立會講演會ノ開催、農商省ニ於テ指導セル慣行法ト大井上農法
下ノ正確ナル試驗ノ施行、大井上農法實施者ノ實績調査ハ公會ノ場
所ニ於テ公正ニ遂行サルベキコトヲ三項ニ亘テ主張セル要望書ヲ農
商相ニ提出スルト共ニ同一文書ヲ首相陸海兩相ニ夫人秘書官ニ面接
シテ提出爾來本農法ノ優秀性ヲ固執シ農林技術官ノ反對スル所以ハ
其ノ偏狹ナル性格ニヨルモノナリトシ地方行政廳或ハ警察官署ノ本
農法ニ對スル措置ヲ云爲シ其ノ勢ノ赴ク所反政府的ニ迄移行セント
スルノ傾向ヲ示シ
農村文化研究會ニ在リテハ本年一月十六日ヨリ廿日俾ニ亘リ中央農
業會講堂ニ於テ本會ノ大井上農法成績發表全國大會ヲ開催會終了後
ノ一月十八日參加會員三百名ハ黑龍會主幹葛生能久ノ幹旋ニテ地方
篤農者ノ集リトシテ首相官邸ニ赴キ東條首相ヨリ食糧増産ノ爲メニ
農業ノ重要ナルコトヲ述ベ其ノ一層ノ努力ヲ願フ旨ノ激勵ヲ受ケタ
ルガ本會々員中ニハ大井上農法ハ農林技術官ヨリ反對セラレタルモ
首相ハ實意ヲ表シ居ルモノナリト事實ヲ歪曲シテ本農法宣傳普及ニ

悪用シタルノ要主意動向アリタリ

4. 狀況以上ノ如クニシテ前記諸団体ノ幹部ニ在リテハ未ダニ本良法ハ驚異的ニ優秀ナル農業技術ナリト過信シ其ノ獨斷的妄想ヨリ單ニ農林技術官ニ對シ反感の態度ヲ示セルニ止ラズ更ニ進テ反政府的ニ迄移行セシメシフアリ從テ戰局ノ重大化ニ供ヒ食糧事情益々急迫セントスル時ニ當リ其ノ動向逆賭シ難キモノアリ嚴重視察内偵シ來リタリ

(五) 第八十二帝國議會ヲ繞ル運動

政府ノ戰時刑事特別法改正法案ノ提出及推薦選舉制ノ再檢討等ニ依リ革新陣營ノ院内外相呼應シテノ囂々タル批難總反響ニ遭遇セシ第八十二議會ハ戰刑法ニ對シテハ東條首相自ラ戰爭遂行ニ支障アル言論ハ之レヲ取締ルベキハ勿論ナルモ然ラザル限り飽迄國民ノ言論ハ暢達スベキデアリ本法濫用ノ弊ニ陷ルガ如キコトナキ様萬全ヲ期ス

ノ聲明ニ依リ推薦選舉制ニ對シテハ安藤内相ノ好意アル答辯ニ依リサ
シモ波瀾ヲ極メテ同議會モ辛シテ終末ヲ告ゲタリトハ云々未ダ革新陣
營ヲシテ釋然タラシメザルノミカ爾來却ツテ狀勢ハ深刻トナリ專化ノ
一途ヲ辿ルニ至レリ

即チ革新陣營ハ舉グテ東條内閣ヲ目シテ昭和ノ足利勢ナリ乃至ハ東條
内閣ハ其ノ幕府性ヲ暴露セリ云々ト更ニ政府ト表裏一體關係ニアリシ
輿論ヲ現狀維持幕府勢力ニシテ極限黨ノ再現ナリトシテ反抗氣勢ヲ示
シ狀勢ハ愈々以テ險惡ノ度ヲ加ヘ無氣味ナル底流ハ増大シ内訌シ内閣
ノ施政ヲ凝視シ監視スルノ狀勢ヘト推移セリ斯ル狀勢推移ノ中ニ同年
六月十五日第八十二臨時議會ガ召集セリ一方之レニ先年革新陣營中
ノ選出代議士タル

三田村 武夫 笹川 良一 赤尾 敏
白鳥 徹夫 江崎 源九郎 眞崎 勝次

等ハ輿論幹部ノ舊態依然タル議會運営ヲ草正セントシテ別個キ一八日
會一ナル同志的團體ヲ結成シ此ノ第八十二議會ニ活潑ナル行動ヲ展開

セント意圖ハ其ノ發言ノ機ヲ封
殺サルルニ至レリ

茲ニ於テ新々ル措置ニ憤激セシ赤尾敏代議員ハ六月十六日議會第二日ノ
再開傍頭即チ東條總理ノ施政方針演說直前壇上ニ立テル首相ニ向テ突
如

重大法案ノ審議ニ會期三日トハ短カキ失スル然モ我々ハ發言ノ機會
ヲ完封サレテ居ル斯ル議會運管ヲ以テシテハ聖慮ヲ安ジ奉リ國民ノ
期待ニ添フ事困難ナアル東條首相ノ深キ考慮ヲ望ム

旨ノ不御發言ヲナシ其ノ憤滿ヲ爆發セシメ首相ヲシテ暫時立往生ノ已
ムナキニ至ラシメタルヲ以テ俄然院内外通ジテノ大波紋ヲ畫キ赤尾代
議員ハ即日與政ヲ除名サルルト共ニ懲罰委員會ニ附セラレ遂ニ譴責處
分ニ附セララルニ至レリ

茲ニ於テカ與政内ノ反幹部派ニ反響ヲ呼ビ中野正剛、鳩山一郎ヲ初メ
トシ白鳥敏夫、江藤源九郎等相次テ與政ヨリ脫退スルニ至リ反與政的
延テハ反東條的氣運ハ愈々増大セルガ此ノ間第八十一議會末期ニ於ケ
ル天野辰夫ノ著述セル

以係首相ニ忠言スレ戦刑法改正絶對不可

ト題スル論文、三田村武夫ノ發行セル（四月一日）

戦刑法改正ト憲法問題

ト題スル論文ガ夫々出版法乃至ハ新聞紙法違反事件トシテ檢舉サレ更ニ三田村武夫ノ

眞政ノ運営ト國体憲法

ナル印刷物ガ發禁處分ニ附セラレアルニモ本拘再度之レヲ發行セルニ及ビテ九月六日再度檢舉ヲ見ルニ至リ狀勢極メテ深刻ナルモノアル折柄九月三十日皇道眞實青年聯盟紙イテ翌十月二十一日ノ勸皇まことむすび、以方同志會、大日本勸皇同志會ノ全國的一齊檢舉等アリテ革新陣營モ表面一時萎微沈滞ノ狀況ヲ呈シ同月二十五日ヨリノ第八十三臨時議會召集初頭ニ於ケル中野正剛代議士ノ自刃等ノ事件惹起セルアリ兩々相俟ツテ同臨時議會ハ勿論第八十四議會ニ於テモ一部ニ中野代議士ノ自刃原因辯明要求ノ聲アリタル外何等特筆スベキ行動ナク終了推移セル狀況ナリシガ

然シ一時沈滞セルト雖モ革新陣營ニ於ケル滿々タル維新へノ意圖ハ解
消スベクモ無ク依然トシテ裏面ニ沈滞底流シ居ルヲ以テ之等維新陣營
ノ議會ニ對スル動向ハ時局ノ推移ト共ニ樂觀ヲ許サズ嚴重警戒ヲ爲シ
來リタリ

(六) 政局ヲ繞ル動向

サイパン復仇國民有志大會企圖

龜町區有樂町一ノ一四 (佐藤ビル)

(旬刊) 日本新聞社

主 幹 增 田 一 悅

右ハ豫ネテヨリ東條内閣ノ政策特ニ統制經濟ノ運營言論取締方針ニ不
滿ヲ有シ居リ且ツコレト共鳴ノ間柄ニ在ル愛國社岩田愛之助ノ支持ヲ
得テ時恰モ中部太平洋戦局ノ機相苛烈ヲ極メテ特ニサイパン島戦局ガ
異常深刻ナル段階ニ突入セル七月初旬
「對米決戦ノ輿論喚起」ヲ表面理由ニ沈滞セル國民士氣ノ昂揚戦局

打開ノ一大國民運動展開ノ要アリトシ國民大會計畫ヲ繞ラシ思想新聞
トシテ友誼關係ニアル

京橋區銀座西六ノ五（御幸ビル）

（週刊）報國新報社 田邊宗英

芝區濱松町一ノ三

（日刊）やまと新聞社 兒玉譽士夫

京橋區銀座西七ノ六

（日刊）帝國新報社 小崎一正

芝區田村町二ノ三（磯田ビル）

（旬刊）愛國新聞社 松木良勝

ノ贊成ヲ得テ一月十日大東亞會館ニ第一回準備會ヲ開催五社聯合主催
ニテ國民大會ヲ開クコトニ一決ヲ見タルモ席上「當局ハ現在ノ言論取
締狀況ヨリシテ不許可ナルベシ」トノ意見アリ協議ノ結果先ツ「サイ
パン奪還皇軍激勵ノ國民大會ヲ開催全國民ノ心底ニ鬱勃セル眞ノ叫ビ
ヲ絶叫シ神州ノ正氣ヲ發揚シ以テ敵米國ヲ壓倒セントス即チ皇都内ハ

勿論全国各地ニ於テ大會ヲ開催セントスル計整ナリ事焦眉ノ急ニ屬ス
準備萬端ノ都合上至急賛否ヲ乞フテ止マズ」ナル照會文（葉書）ヲ各
社分擔政、財、學、思想界ヲ始メ一般讀者層ニ五萬部ヲ郵送シタル上
賛成回答ヲ蒐集一括以テ「國民熱意ノ存スル處如斯シ」ト開催許可ヲ
迫ラントスル策ヲ定メタリ然レ共正當ナル國民士氣ノ昂揚學敵精神強
化ハ素ヨリ抑壓スベキニアラス依テ國民總結集ノニ助タラシムル見地
ヨリ許可方針ヲ以テ臨ミ七月十二日

増田 一 悅 松木 良勝

ヲ當應ニ招致許可ヲ明示遵守事項ヲ嚴達セリ

此處ニ於テ主催者側ハ當初ノ方針ヲ變更爾來七回ニ亘リ準備會ヲ續行
1. 五社聯合ニテハ迫力乏シキヲ以テ殉難同盟（此種大會ニ限り使用默
認ナル名儀ヲ使用スルコト

2. 假事務所ヲ四谷區四谷一ノ十四谷俱樂部ニ置ク

3. 一應右殉難同盟ノ結成式ヲ舉グルコト

4. 大會ヲ七月二十七日午後一時ヨリ日比谷公會堂ニ開催スルコト

5. 宣言決議案ハ寺田稻次郎ニ一任

6. 宣傳、ピラ、ポスター、立看板

等ヲ決定各社分擔セリ

次テ殉難同盟結成式ヲ七月十九日正午ヨリ二時ノ間四谷俱樂部ニ於テ
舉行

出席者

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|-----|----|----|----|---|
| 岩 | 増 | 大 | 田 | 薩 | 赤 | 片 | 高 |
| 田 | 田 | 森 | 邊 | 摩 | 尾 | 山 | 畑 |
| 愛之助 | 一悅 | 鑛太郎 | 宗英 | 雄次 | 敏 | 廉平 | 正 |
| 入江 | 松木 | 川原 | 寺田 | 皆川 | 友納 | 下澤 | |
| 種 | 良 | 信一郎 | 稻次郎 | 三陸 | 早一 | 秀夫 | |

1. 殉難同盟名儀使用ノ件

外四十名ニテ（主トシテ國體擁護聯合會關係）

2. 大會準備委員並世話人ヲ本日ノ出席者全員トスル件
ヲ正式決定無事散會セリ

然レ共右計畫ノ真意ヲ内偵スルニ彼等ノ狙ヒハ「東條内閣ノ批判」ヨ
リ「倒閣」ノ氣勢ヲ舉グルニアリテ即チ東條内閣成立以來二年九月
其前半期ニ於テハ政治批判ノ見ルベキモノナカリモ昭和十八年第八四
回通常議會ニ於テ通過シタル戦刑法改正問題、第八五回臨時議會ニ於
ケル赤尾敏代議士ノ發言問題等ヲ契機トシ革新陣營ノ大衆ニ對シテハ獨
裁強化幕府性ヲ露呈セリト極論前者ニ際シテハ天野辰夫ノ新聞紙決議
反事件後者ニ際シテハ翼贊政治會ノ内紛等ヲ派生シタルガ兎ニハ言論
ノ抑壓ヲ難ズルト共ニ政界思想界ニ倒閣氣運ヲ醸成スルニアリテノ現レ
ハ別項まことむすび東方同志會等ノ檢舉事件ヲ惹起シタルガ革新分子
ハ夫々ニ立脚反政府的言動ヲ藏シツツモ他面取締ニ畏怖セルガ演說會
ノ如キモ減少ノ方途ニアリ斯ル狀勢下ニ戦局ハ次第ニ守勢ニ轉シ機相
苛烈ヲ加ヘ政府ニ取り惡條件加重セリ
斯クテ本年第八七回通常議會ハ表面平靜裡ニ終了セルモ翼贊政治會ノ
反幹部派ノ院外言動ハ決シテ政府支持ニ非ラズ政府議會一丸トシ發足

シタル「國民總隊起運動」ノ辯士代議士中ニハ故意ニ言ハシテ歪曲セル
モノスラ散見セリ此ノ空氣ハ敏感ニ革新陣營ニモ反影シ遂ニ五、六月
ノ頃ニ於テハ反政府ノ氣鬱積セルヲ容易ニ看取シ得ル憂慮スベキ状態
ニ導入セリ右券國氣ノ裡ニ更ニ中部太平洋戦局ハ必迫シ遂ニサイバ
島ノ危機ヲ傳ヘラルルヤコレヲ機會ト爲セル右司會者等ハ名ヲ「サイ
パン復仇」ニ藉リ倒閣運動ノ先聲ヲラント企圖セルモノナリ
然ルニ翌七月二十日

「東條内閣ハ十八日總辭職」

ノ旨ト

「サイパン島全員戦死」

ノ懸報ヲ情報局ヨリ夫々發表アリ

一方小磯朝辭總督、米内海軍大府ニ組閣ノ大命降下ノニュース等アリ
テ情勢ノ變化ハ痛ク大會舉行ノ眞意タル反東條内閣ノ氣鋭ハ坐折スル
ニ至レリサレド大會準備ハ完了然カモ「サイパン復仇」ハ國民ノ義憤
ナルヲ以テ大會ハ豫定通り舉行スルコトトナレリ

(七) 事件關係及公判狀況

1 事件關係

(1) 大東塾同人野村辰夫ノ葬式妨害事件

本籍 鹿兒島縣始良郡上小川町三三五
住所 澁谷區代々木西原町九五九 大東塾内

大東塾同人 野村 辰夫

大正五年二月二十三日生

右大東塾同人野村辰夫ハ豫テヨリ戰破將兵ノ公葬ハ神式ニ統一執行
スベシト爲ス大東塾長影山正治ノ主張信念ヲ絶對トシ之レガ實現ニ
努メ來レリ然シテ本年五月十二日故古賀峯一元帥ノ海軍葬ハ佛式ニ
依リ築地本願寺ニ於テ執行セラルルニ痛ク憤激シ之レガ葬儀執行ニ
際シテハ自己ノ身ヲ挺シテ阻止セ右趣旨ノ闡明ト實現ノ導火線タラ
シムコトヲ決意シ同日午後零時十分頃葬列ガ元帥邸ヨリ築地本願寺
ニ向フ途中ヲ大藏省前ニテ待テ受ケ葬列前面ニ立塞リ（進行中ノ自
動車ニヨリ殺殺サレ葬式ヲ阻止セムトシタルモノト稱ス）阻止セムト
シタルモ目的ヲ達セズ現場ニ於テ檢舉セラレタル事件ニ就テハ其後

東京區才判所吉橋檢事係リニテ取調中ノ處五月二十七日葬式妨害事
件トシテ起訴セラレ七月十五日東京區才判所第七號法廷ニ於テ第一
回公判ヲ開廷サレ

判事 鈴木良一

檢事 吉橋敏雄

辯護人 岩田春之助

特別辯護人 影山庄平

等出廷ノ下ニ被告野村ノ思想經歷、公葬問題ノ意義等訊問ノ後事實
審理ヲ終了シ次テ七月二十五日第二回公判開廷

證人 一條實孝 杉本政重

ノ喚問アリ公葬問題ニ關シテ訊問ノ後立會吉橋檢事ヨリ

懲役一年

ヲ求刑セラレ續イテ影山庄平ノ特別辯護ニ入り目下審理續行中ニテ

(2) 大塚塾同人野村尾夫ノ傷害事件

前記野村尾夫ハ昭和十八年九月著述家中河與一ガ自己ノ編輯雜誌「

「文藝世紀」並「現代」九月號等ノ雜上ニ於テ會テ大東塾長影山正治ノ爲セル島崎、藤村批判文ヲ論難シ更ニ影山塾長ノ主宰スル文化團體新國學協會同人尾崎士郎等ノ性格ヲ誹謗シタルハ不都合ナリトシ中河與一ヲ謝罪セシムル目的ヲ以テ昭和十八年十月十一日

世田ヶ谷區祖師ヶ谷二ノ一三三一

ノ中河方ヲ訪問シ同人ニ面接詰問ノ上激昂ノ餘リ同人ヲ毆打全治三週間ノ傷害ヲ負ハシムル事件ヲ惹起シ東京區才判所吉橋檢事係リニテ取調中ノ處本年二月二十八日傷害事件トシテ起訴セラレ同日東京拘置所ニ身柄收容セラレタリ然シテ本年五月十三日東京區才判所永井判事係リニテ之レガ第一回公判ヲ開廷

| | |
|-----|-------|
| 判事 | 永井雄尙 |
| 檢事 | 吉橋檢事 |
| 辯護人 | 岩田春之助 |

等出廷ノ下ニ事實審理ノ後立會吉橋檢事ヨリ

懲 役 八 月

ノ 求 刑 アリ

同 三 月 二 十 日 東 京 區 才 判 所 ニ 於 テ 第 二 回 公 判 開 廷 シ 永 井 判 事 ヲ リ

懲 役 五 月

ノ 判 決 言 語 ヲ 受 ケ タ ル モ 之 レ ヲ 不 服 ト シ テ 同 月 二 十 五 日 控 訴 院 主 對 ス

ル 上 告 手 續 ヲ 爲 セ リ

(5) 首 相 官 邸 前 自 刃 未 遂 事 件

本 籍 鳥 取 縣 東 伯 郡 長 瀬 村 大 字 田 後 九 一 五

住 所 澁 谷 區 代 々 木 西 原 町 九 五 九 大 東 塾 内

塾 生

福

本

美 代 治

當 三 十 九 年

右 者 大 東 塾 塾 生 九 月 二 十 一 日 大 東 塾 ニ 入 塾 シ 爾 來 塾 生 ト シ テ 鍊 成 中 ニ 在 リ
タ ル 事 業 大 東 塾 同 人 野 村 元 夫 夫 忠 靈 公 葬 禮 式 統 一 實 現 ノ 爲 ニ
爲 セ ル 故 古 賀 元 帥 ノ 海 軍 葬 葬 式 妨 害 事 件 ニ 刺 戟 サ レ 更 ニ 野 村 ノ 意 志 ヲ
繼 承 ス ベ キ 決 意 シ 待 機 中 六 月 末 七 月 十 五 日 期 シ 大 東 塾 ノ 忠 靈 公 葬 禮
式 統 一 ノ 清 願 運 動 方 全 國 的 ニ 展 開 サ ル 旨 ヲ 塾 幹 部 ヲ リ 聞 知 シ タ ル 方

更ニ同日東京區裁判所ニ於テ前記野村ニ對スル葬式妨害事件ノ第一回公判ガ開廷サルニ決定ヲ知ルヤ同日ヲ期シテ首相官邸ニ於テ身ヲ捧ゲ短刀ヲ以テ割腹自決スルト稱ス一以條首相ニ請願セムト決意シ短刀、請願文等ヲ準備シ同日午前六時首相官邸正門前ニ於テ願文ヲ朗讀自刃セムトシタルモ警戒中ノ麹町署員ニ檢束サレタルガ目下麹町署ニ留置シ當課ニ於テ取調續行中ニアリ

(4) 皇道翼贊青年聯盟關係

概 說

皇翼聯盟ハ昭和十五年夏在京革新陣營中堅分子ノ大同團結ヲ目途トシテ發足セルガ寄合世帯ノ弱點ヲ暴露シ會員ノ意思稍モスレバ疎通ヲ缺ギ平沼事件ニ依ル本會員ノ檢舉取調以後ハ頓ニ會勢減殺セルト共ニ會員モ遂次離散スルノ狀況ニ立到レリ然ルニ本聯盟員中ノ急進分子ニシテ且テ至軒寮ニ關係ヲ有スル

毛 呂 清 輝
溝 口 勇 夫

小島 正之
大和 正之
矢野 俊之
此 省 吾

ハ之ガ再建ヲ企圖シ新ニ維新運動ノ具体的構想ヲ協議決定シテ昭和十
七年三月事務所ヲ

東京都赤坂區田町

ニ設置、三軒寮ト密接ナル連絡ヲ保持シテ機關紙「翼賛運動」ヲ編
輯發行スルト共ニ本事務所ヲ以テ全國的同志ノ獲得、情報交換、蒐集
ノ據點ト爲シ來レリ

最近ニ於テ

皇翼聯盟ト至軒寮トノ關係

皇翼聯盟其ノ常任理事ナル

至軒寮長

穂

積

五

一

方發尼頭初ヨリ就任シ其ノ運動費モ亦テ本名ガ提出シ來レテガ前記

委員長

毛

呂

浩

輝

聯盟員

溝

口

勇

夫

等ハ穂積五一ノ命ヲ受ケテ運動ヲ展開本聯盟ノ實權ハ完全ニ至軒寮ノ影響下ニ歸シ至軒寮ト密接不離ノ關係ヲ有スルニ至レリ加之聯盟事務所ニ常時出入スル者ハ概ネ中央、地方ヲ通ジテ至軒寮ニ關係ヲ有スル學生、青年ガ其ノ主ナルモノニシテ

聯盟員 小島玄之

- | | | | | | | | |
|----|----|----|----|-----|----|----|----|
| 東京 | 長野 | 群馬 | 岩手 | 大阪 | 岐阜 | 茨城 | 福岡 |
| 近松 | 小林 | 増澤 | 山本 | 清原 | 林 | 奥村 | 大和 |
| 久 | 古 | 芳 | 昇 | 富士雄 | 英助 | 正治 | 正俊 |

林 正 夫

等方其ノ代表的ナルモノナリ

具体的運動（組織運動）

委員長毛呂清輝ハ會テ神兵隊事件ニ連座セルガ其ノ後從來ノ運動ノ
理念並ニ運動ノ實體ニ不滿ヲ抱キ苦惱セルガ新時代ニ即應セル創造
的維新運動ノ進發ヲ決意スルト共ニ之ガ實踐ニ關シ

大 和 正 俊
矢 吹 省 吾

ノ兩名ト三位一體的血盟ヲ結ブニ至レリ即チ維新運動ノ根本理念ヲ
從來ノ合法（大衆組織）非合法（小數ノ尖銳分子結集）兩者ヲ綜合
揚棄セル

第三勢力ノ結集

ニ其ノ主力ヲ集中シ専ラ中央、地方ヲ通ジテ塾ノ開設、大衆組織ノ
確立ニ活潑ナル運動ヲ展開スル一方之ガ運動ノ方針書トシテ

皇國第二維新大綱

ナル不穩文書ヲ作成本大綱ニ基ク具体的運動ニ關シ昭和十六年夏以

降ニ於テ協議同志ノ全國的布石ヲ以テ強力ナル六方勢力ノ基礎獲得ヲ目途シ以テ來ル可キ維新斷行ニ備ヘ其ノ終局ノ目標ヲ

大詔渙發奏請ニ依ル

維新政府ノ樹立

ニ置キテ必死ノ運動ヲ展開シ來レリ

○戰刑法ヲ繞ル反對運動

昭和十八年二月第八十一議會ニ於テ所謂戰刑法三法案上提サルルヤ本法案ヲ以テ維新愛國團體ヲ彈壓スルモノナリトシ猛烈反對的態度ヲ鮮明ニシ直チニ他ノ愛國團體ト緊密ナル連繫ノ下ニ共同歩調ヲ採リ聯盟ノ名ヲ以テ之ガ反對ビラヲ作製、議會及關係代議士其他ニ撒布郵送スル一方ニ於テ愛國團體關係代議士ヲ歴訪シテ本法案否決方ヲ懇請若ハ激勵スル等猛然反政府的態度ニ出デタリ之ヨリサキ昭和十七年暮ヨリ前記三名ハ東條內閣ノ性格ニ對シ東條內閣ハ組閣當初ハ維新任ヲ脱落シ財閥、舊政黨ノ走狗トナリ反國体的政治結社タル翼政會ヲ結成、剩ヘ其ノ領袖中ヨリ閣僚ヲ

迎へル等極メテ現狀維持の性格ニ非レバ親英米臭アルモノト爲シ
畢竟國內ノ政治、經濟其他ノ諸機構ガ依然タル自由主義、資本主
義制度ヲ固執スル所謂全權幕府勢力ニ屈伏昂頭セシ證左ニシテ此
ノ資本主義制度ヲ打倒シテ皇國本來ノ國家社會組織ヲ確立スル維
新ハ歴史の必然ノ課題ナリト斷シ從フテ此ノ金權幕府ノ廢使ニ甘
ズル東條内閣ヲ打倒セズンハ遂ニ皇國ノ危機ヲ招來スルト共ニ東
條内閣ハ正ニ幕府の勢力ノ傀儡的存在ナリト結論殊ニ前記

大 和 正 俊
矢 吹 省 吾

ノ兩名ハ東條内閣打倒ニ關シ直接行動ヲ示唆スルニ至リ自己ノ影
響下ナル福岡、茨城縣下ニ於ケル塾員ニ對シ座談會、演說會ヲ開
催或ヒハ秘密會合ニ於テ

東條内閣ノ打倒、維新斷行ノ實現

ヲ強調シ同志ニ相當ナル思想的影響ヲ與ヘタリ

ニ皇翼聯盟（至軒寮）關係者ノ檢舉

然ルニ昭和十八年四月初旬毛呂清輝ハ本郷區駒込神明町三三九

自宅二階書齋ニ於テ拳銃盲發事件ヲ惹起セルヲ以テ駒込署ニ留置
取調ヲ爲同月下旬一應釋放其ノ後ニ於ケル本名ノ動靜ニ就キ銳意
視察セルモ本名ハ一時表面運動ヨリ沈潜シ専ラ他國林ノ尖銳分子
トノ接觸ヲ企圖シツツアリタルガ偶々同七月十二日木戸市弘道館
ニ於テ矢吹省吾ノ主催ニ關ル

皇國救國座談會

ニ出席セル當日召集令狀ニ按シ同年八月一日中野第三十七郡隊ニ
入隊セルガ大和・矢吹ノ兩名ハ同志毛呂ノ入隊ニ付キテ失望狼狽
ノ色蔽イ難キモノアリ大和・矢吹兩名ハ更ニ堅キ結盟ヲ誓ヒ當面
ノ運動目標ヲ東條内閣ト不離一体ノ關係ニ在ル

翼政會及翼壯

ノ奪取打倒ヲ以テ倒閣ノ基礎運動タラシメント決意

大和ハ東北北海道方面ヲ巡歴座談會其他ニ出席同年九月中旬ニ至
ル間專ラ殺人ヲ示唆スル奇矯ナル言動ヲ爲シ農村青年ヲ煽動スル
一方矢吹ハ主力ヲ茨城縣下ノ翼壯乘取リヲ策シ之ガ幹部ノ詳表提

出ヲ迫ル外同志中仲武夫等ト共ニ

翼政代議士 佐藤洋之助

ノ自宅ニ至リ同人ヲ脅迫辭表提出ヲ強要スル等不穩ナル行動ニ終始セリ

更ニ前記三名ト同志的關係ニ在ル

小島玄之

ハ群馬縣長野縣下ヲ遊說軍政必至ヲ高調シテ之ガ

受ケテ起テ組織ノ確立

ノ必要性ヲ動ニ狂奔スル等戰時下治安上看過シ難キ狀況ニ在リ

茲ニ於テ同年九月二十日午前六時ヲ期シ全國一齊ニ皇翼聯盟關係者中當廳ニ於テハ

小島玄之

小林古壽

久保重光

溝口勇夫

小 林 榮 吉
 佐 藤 基 重
 澤 登 晴 雄
 野 中 兼 輔
 外 五 名

又檢學取調ヲ開始越ヘテ十月二十日

至軒寮長 穂 積 五 一

穂 積 七 郎
 毛 呂 清 輝

林 正 夫

又更ニ檢學取調ヲ續行セルガ前記檢學者中容疑ノ點ナシト認メラ

穂 積 五 一
 穂 積 七 郎
 林 正 夫

山形 岐阜 長野 茨城 福岡

高橋 奥村 増澤 林主 矢吹 中正 大和 栗原 三木 古味 小川 田中 高橋 英七 正治 芳彦 主計 吾夫 俊吉 明郎 茂夫 光

ノ十三名ヲ本年五月下旬以降順次當廳ニ護送夫々所轄署ニ留置檢
事ニ於テ夫々取調ヲ續行セラルガ前記被疑者中

毛呂清輝

不穩文書臨時取締法

大

和

正

俊

戰刑法殺人煽動罪

矢

吹

省

吾

言論出版集會結社臨時取締法違反並強要未遂罪
依り夫々起訴六月二十二日東京拘置所ニ收容目下豫審請求中
アリ

小

島

玄

之

言論出版集會結社臨時取締法違反

ニテ六月二十三日
起訴東京區裁判所檢事局ニ送局目下東京拘置所
ニ收容中ナリ
右四名ヲ除ク前記被疑者中

岩手

清

原

富士

雄

長野 増澤芳彦 主計

林 主計

ノ三名ハ不起訴處分ト決定夫々當該縣ニ於テ釋放セルガ更ニ殊留者ハ處分未決定ノ儘ニ夫々當該縣ニ護送一應釋放本年八月三日ヲ以テ全被疑者ノ身柄引續ヲ完了セリ

(5) 勤皇まことむすび及維新公論社關係

芝區愛宕町一丁目二番地

勤皇まことむすび中央事務局

主幹者 關根 三子雄

赤坂區青山南町三丁目二番地

維新公論社

主幹者 芥川 治郎

右者ハ神兵隊事件關係者タル

中野區高根町四番地

辯護士 天野 辰夫

ヲ背後の最高指導者トシテ所謂神兵隊告リ直シ組ヲ中核分子トシテ
結成セラレ全ク一體關係ニ入り機關紙「まことむすび」及「維新公
論」(月刊)ヲ夫々發行シ茨城、岡山、愛知、京都、大阪ノ府縣ニ
主動的組織ヲ有シ活潑ナル運動ヲ展開シ來タレルガ昭和十六年八月
所謂平沼國務相狙撃事件後中堅幹部タル

片岡 駿 中村 武

ヲ未決ニ送り機關紙ニ依ル時局批判ノ外ハ久シク特異行動ナク經過
シ來タレル處客年三月「維新公論」ニ天野元夫ノ執筆ニ係ル

「日本國體ノ大義名分型戰必勝ノ第一要件」

ト題スル極端ナル政府誹謗ノ論文ヲ掲載發行シタル廉ニ依リ天野元
芥川治郎等ハ當時新聞紙法違反トシテ起訴(目下東京區才判所ニ繫
續中)セラルニ至リ之ガ事犯タル戰時刑事特別法改正問題ヲ契機ト
シテ公然反政府態度ヲ表明スル一方中心分子間ニハ露骨ナル反政府
的言動ヲ敢行シ地方組織分子ヲ煽動スル傾向頓ニ濃厚トナリ
更ニ最高指導者タル天野ノ動向ハ昭和十八年春以來特ニ東方同志會
會長故中野正剛ト往復頻繁ノ度ヲ加へ相互關係ニ立脚時局下政策批

判ニ名ヲ藉リ牽強附會獨善的政治論ヲ試ミ國體分裂言動ヲ敢テシ政治的倒閣謀略ヲ企策スルニ至レリ係ル芬團氣裡ニ同年五月前記

片岡

駿

中村

武等

賁付出所スルニ及ビまことむすび青年運動ハ漸次積極化シ別記所謂平沼事件公判戦ト相俟フテ

「東條内閣ニテハ聖戰完徹ニ至ラズト斷ジ

急進分子ノ結集ヲ計ルト共ニ天野瓜夫ノ常套手段タル上層部工作ト相俟テ倒閣運動ニ拍車ヲ加ヘ各年六・七月以降之亦反政府陣營タル

東方會

皇道翼贊青年聯盟

大日本勳皇同志會

トノ運動合流ヲ暗ニ企圖、輿論ノ醸成ヲ期サントスル傾向ヲ帶ビ一方其ノ直系組織影響下分子ニ對シテハ「最後的手段タル直接行動ノ氣魄・心構ヲ培養シ」來タリシヲ戰時下治安ヲ紊ルコト甚シク看過シ難キ危險性ヲ露呈セリ斯ル動向ハ幾ニ公布ノ戰時刑事特別法

第七ノ二項「國政變亂」事犯ノ嫌疑濃厚ナルヲ以テ昭和十八年十月二十一日午前六時ヲ期シ別項東京同志會勸皇同志會分子ト同時ニ全國一齊ニ危險分子ノ檢舉ヲ行ヒタルガ當廳管下ニ於ケル檢舉者左表ノ如ク天野辰夫以下三十一名

斯クテ爾來取調續行中

片岡、中村等ハ十一月五日付ヲ以テ石田和外判事ヨリ責付ノ取消決定アリ十二月十三日之ガ執行再ビ東京拘留所ニ收容セララルニ至リ他ハ取調ノ進行ニ依リ關係ナキ者ヲ逐次釋放セルモ

三月六日天野、芥川ノ兩名ヲ國政變亂、殺人陰謀事犯トシテ送致、東京拘留所ニ強制收容セラレタリ

然ルニ片岡ハ三月十日天野ハ同十五日不起訴ト決定夫々釋放サレ片岡ハ十一日責付トナル

中村武ハ三月二十八日言論出版集會結社臨時取締法第十八條及陸軍刑法違反

芥川ハ三月十五日國政變亂、殺人煽動事犯ニテ起訴セラレタリ

如上ノ如ク其ノ存在ハ戰時下ノ思想結社トシテ許シ難キ狀況ナリシ
ヲ以テ三月十五日内務大臣ヨリ言論出版集會結社等臨時取締法第八
條ニ基キ

兩結社ノ許可取消及其ノ機關紙ノ發行許可取消處分アリ當課主管ノ
結社處分指令ヲ即日夫々ノ主幹者タル關根三子雄（於金井病院）芥
川治郎（於東京拘留所）ニ於テ交付シ遵守事項ト共ニ請書ヲ發シ處
置ヲ了シタリ

東京方向社會關係

赤坂區瀨池町三〇番

東京方向社會

中野正剛

中野正剛ニ率キテ、東京會ハ支那革命勃發以來南進漸行、米英財
 源ヲ主張シ反政府の立場ニ於テ活潑ナル國民運動ヲ展開シ、大
 東亞戰爭勃發ニヨリ夫等ノ主張ハ國策トシテ實現セラレタリ以テ
 一應從來ノ態度ヲ擯棄シ聖戰完遂ノ爲メ國民運動ヲ激シ來リタリ
 七ノナリ、然ルニ政府ノ推戴選舉ヲ實施、統制經濟ノ進歩等ハ施策
 悉ク東京會ノ方針ト相容レズト爲シ漸次反政府の態度ニ移行シ、
 昭和十七年十二月四日淺草公會堂同年十二月二十一日日比谷公會堂
 演舌會ニ於テ政府施策ヲ論難攻撃シ、幕僚内閣ノ政策並ニ性格、全
 面的ニ否定シ反政府の態度ヲ宣々ト表明スルニ至レリ、
 更ニ八十一通常議會ニ戰刑法改正案ノ上提キタル、ヤ之ヲ通過ヲ阻
 止セントシテ持物ニ戰ヒタル、七無修正通過ヲ見、ニ致シ遂ニ政局一

長係ニテ公判審理中ノ處四月十七日同法違反ニ依リ懲役六月但シ未決
三十日通算ノ判決アリ目下上告中アリ、本部連絡部員長谷重夫ハ同法
違反ニ依リ三月十日前記載判長ニ於テ公判審理中ノ處五月二十九日懲
役五月但未決五十日通算ノ判決アリ確定ス、青年隊員高橋勝三ハ同法
違反ニ依リ四月四日起訴前記載判長係ニテ公判審理中ノ處五月十五日
懲役五月但シ五年間執行猶豫ノ判決アリ確定ス
而シテ本部ノ幹部ニ在リテハ會ノ今後ノ方針ニ就キ種々協議シタル結
果三月二十三日解散届ヲ自發的ニ提出スルト共ニ全國各支部ニ對シ解
散指令ヲ發送シコ、ニ本會ハ解散スルニ至レリ而シテ一部ノ幹部進藤
一馬、長谷川俊等ハ雜誌「脚觀」ヲ創刊シ純然タル文化機關トシテ新
發足ヲナスコト、アレリ
以上ノ如ク一應事件ノ結末ヲ見ルニ至リタルモ全國會員中ニハ種々ナ
ル憤懣ヲ持テ急進青年分子ニ在リテハ相當尖鋭化スル虞アルヲ以テ之
等關係者ノ切實ニ就イテハ銳意觀察内偵ヲ爲シ來リタリ

| 氏名 | 年齢 | 國体地位 | 職業 | 住 所 | 身柄措置状況 |
|--------|----|---------|-----|--------------------|--|
| 中山 正剛 | 50 | 會長 | 代議士 | 澁谷區代々木本町 808 | 昭和十八年十月二十五日釋放同一十七日自宅ニ於テ死亡 |
| 三田村 武夫 | 46 | 理事 | 代議士 | 王子區岩淵町 21209 | 昭和十八年二月十七日言論出版集會結社等臨時取締法第十八條違反トテ公判起行中 下東京地方裁判所ニ於テ |
| 永田 正義 | 34 | 某万青年隊教導 | 無職 | 世田谷區祖師ヶ谷 1-1-14 | 同年二月二十七日同法違反トテ起訴同年四月十七日東京區裁判所ニ於テ懲役六月ノ判決アリ目下上告中 |
| 長谷 直夫 | 38 | 連絡部員 | 無職 | 世田ヶ谷區成城町 1-1 | 同年二月十九日同法違反トシテ起訴同年五月二十九日懲役五月未決五十七日通算判決確定ス |
| 高橋 勝三 | 33 | 大阪學務局員 | 無職 | 大阪市西區新町南通 2-2-5 | 同年四月四日同法違反ニ依リ起訴同年五月十五日懲役五月執行猶豫五年間判決確定 |
| 河川 金昇 | 35 | 某万青年隊參謀 | 著述 | 淺草區馬橋 2-1-5 | 同法違反トシテ書類送致ノ上同十九年三月十四日釋放 |

| | | | | | | |
|---------------------------|----------------|------------------|---------------|---------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 青木 康徳 | 宮崎 秀人 | 山田 茂太郎 | 秋山 亮 | 加藤 琴男 | 眞壁 貞男 | 長谷川 峻 |
| 23 | 40 | 37 | 39 | 63 | 34 | 33 |
| 東方問題 研究員 | 東方問題 研究員 | 本部連絡員 | 常任監事 | 前本部員 | 東方青年隊 副隊長 | 東方青年隊 參事 |
| 無職 | 無職 | 著述 | 無職 | 著述 | 無職 | 無職 |
| 神奈川縣高座郡小 出村字遠原 四〇六四 | 豊島區目白町 四ノ五二 | 深川區平井町 二ノ二 | 中野區城山町 五ノ一 | 鎌倉市徳樂寺 三三四 | 北多摩郡柏江村猪 方 六一三 | 淀橋區西久保 二ノ二 |
| 同十八年十二月七日釋放 | 同十八年十二月廿六日釋放 | 昭和ノ爲メ同十八年十二月七日釋放 | 同十八年十一月十一日釋放 | 陸軍刑務九十九係違反トシテ書類送致ノ上同十九年二月二十九日釋放 | 同法違反トシテ書類送致ノ上同十九年三月十二日釋放 | 同法違反トシテ書類送致ノ上同十九年三月十二日釋放 |

21

| | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|------------------------|-------------------------|--------------------|-----------------|----------------|
| 進藤一馬 | 金生正道 | 福井春治 | 阿部健次郎 | 佐藤守雄 | 安藤周一 | 小笠原由松 | 福地立夫 |
| 41 | 20 | 23 | 22 | 30 | 31 | 57 | 29 |
| 總務部長 | 會員 | 本部員 | 會員 | 會員 | 本部員 | 本部員 | 本部員 |
| 無職 | 上智大 理科一 | 東方時報 編輯 | 拓大年 | 無職 | 東大陸 編輯 | 無職 | 東大陸 編輯 |
| 磁谷區代々木本町 八〇八 | 世田ヶ谷區成城町 一一一 | 世田ヶ谷區成城 一一一 | 世田ヶ谷成城町 一一一 | 福岡縣久留米市 諏訪町 一ノ二七二 | 世田ヶ谷區世田ヶ谷 四ノ三三七 | 世田ヶ谷區成城町 一一一 | 品川區五反田 二ノ一二 |
| 同十九年二月十日釋放 | 同十八年十一月九日釋放 | 同十八年十二月六日釋放 | 徵兵口至ノ爲 同十八年十月三十一日釋放 | 應召ノ爲メ同十八年十一月三日釋放 | 同十八年十二月十六日釋放 | 同十八年十二月十一日釋放 | 同十八年十一月十九日釋放 |

大日本勤皇同志會關係

本籍 長野縣飯田市大字上飯田四五〇番地戸主宗一弟

住所 東京都江戸川區小岩町三ノ一四九二番地

大日本勤皇同志會中央委員

近松 久 司

明治四十五年八月十五日

右團體ニ在リテハ飯田馨（山口）菊地峯三郎（熊本）近松久司

（東京）等ガ中心トナリ勤皇精神ノ昂揚實踐ヲ目途トシテ

昭和十七年十二月八日造成セルモノナルガ其後中心分子ニ在リ

テハ戦局ノ不振ト國內生活ノ逼迫化等内外ノ客觀情勢ニ焦慮シ

漸次急進的方途ヲ進リ東條首相ハ國內ニ於ケル現狀維持派ト安

協シ時局ノ要請スル革新政策ヲ斷行シ待ザルモノナリト盲斷シ

危局突破ノタメニハ東條閣ヲ打倒シテ眞ニ時局ヲ要請スル強

力ナル戦時内閣ヲ樹立セザルベカラストアシ當初まことむすび

皇道眞實青年聯盟等ヲ網羅スル革新陣營ノ大向概一ヲ意圖セル

方偶々戦刑法ノ改正法案ヲ繰リ革新陣營ノ全面的反對激化シ折
 柄天野辰夫ノ不穩論文發表ニ伴フ檢舉等ニヨリ益々油ヲ注ギ同
 會ニ於テモ學ケテ東條内閣打倒ノ旗幟ヲ鮮明ニシ一部急進分子
 ニアリテハ戦刑法ヲ乘リ越ヘテモ擬起スルデアラウトナシ藏田
 馨(山口)菊地峯三郎(熊本)等ノ功辭頗ル頻緊トナリ同志ト
 共ニ屢々秘密會合シ夜ヲ徹シテ眞劍ニ何事カ協議シツツアリテ
 注意視察中ノ處昨年十月二日西部第五十四部隊ニ應召セル佐賀
 縣中央委員山口忠六ヨリ菊地峯三郎宛

「藏田氏ヨリ委細聞イタ決行ノ時ハ日曜日ノ夜ニ願ヒ度イ
 自分ハ脱走兵ノ汚名ヲ着テモ敢然魁ケ付ケテ斯ノ事ハヤリ拔
 カネバアラヌ」云々

ノ通信物ヲ熊本縣警務部ニ於テ裏面入手スルニ及ビ其ノ不穩計
 畫ノ一部ヲ探知昨年十月二十一日内務省ノ指揮ニ基キ

| | | | |
|-----|----|----|-----|
| 山口縣 | 藏田 | 以下 | 八名 |
| 熊本縣 | 菊地 | 以下 | 十三名 |

營謀ニ於テハ標記近松久司ヲ檢舉取討中ノ處、陸軍刑法第九十

九條、言論出版集會結社等臨時取締法第十八條違反被疑事件ト
テ本年三月二十三日東京刑事地方裁判所檢事局ニ事件送致、
四月十七日起訴前、強制處分ニヨリ身柄ヲ東京拘禁所ニ收容セ
リ次テ六月五日午前十時三十分ヨリ正午ノ間東京區裁判所刑事
第六號法廷ニ於テ第一回公判開廷セラレ立會吉橋檢事ヨリ懲役
八月ノ求刑アリ六月十三日同所ニ於テ係永井裁判長ヨリ懲役五
月一未決通算四十日一ノ判決言渡アリテ即日服罪入獄セリ、
追而熊本縣ニ在リテハ中央委員菊地幸三郎ガ國政變亂殺人煽動
並ニ同陰謀罪ニヨリ起訴セラレル等アリテ本團體ハ其ノ性格非
合法ノ行動性ヲ有シ戰時下其ノ存在ヲ許容スル能ハサル反國
家の團體ナリシタメ四月二十二日言論出版集會結社等臨時取締
法第八條ニヨリ内務大臣ヨリ結社ノ許可取消處分アリ當課ニ於
テハ主幹者藏田善本年三月死亡シ其他何レモ檢舉取調中アルヲ
以テ

荒川區日暮里町一ノ一八三三番地

ヲ招致右結社許可取消ノ示達書ヲ手交スルト共ニ爾後ノ遵守事
項トシテ

一 本団体ニ係ル一切ノ設備ヲ撤去スルコト

ニ 爾今本団体名ヲ使用セザルコト

三 舊員ノミニ依ル集會ハテザルコト

但解散ニ伴フ機務整理ノタメ符合スル場合ハ少數幹部ニ

止メ且ツ所轄警察署長ニ届出許可ヲ受ケルコト

四 其他結社許可取消ニ關シ指示アリタル事項ハ急速ニ措置ス

ルコト

等ヲ傳達シ請書ヲ徴セリ

斯クテ一應其ノ取締措置ハ了スルニ到リタルモ一部役員中ニ在

リテハ今尚本校息ニ釋然タテザルモノアリ

然レ之等分子ニ在リテハ表面的活動ノ余地オキニ至リタルタメ

必然地下退却ニ走リ何時不穩矯激ノ舉措ニ出ツルモ保シ難キ

實狀ニ在リテ引續キ之ガ切實注意觀察シ來リタリ

(8) 言論出版集會結社等臨時取締法違反事件

本籍 朝鮮釜山府富平町三一五三戶主フミ二男
住所 東京都澁谷區物澤町三五、白井爲雄方

大日本一新會本部事務局員

御宿墨々生

舊名金性春

淺

野

殿

五月生營二十二年

右ノ者昭和十九年三月四日行ハレタル大政翼賛會ニ看板毀損等
件被疑者トシテ同月二十五日檢舉取調ノ結果、言論出版集會結
社等臨時取締法第十八條違反トシテ四月十日一件記録ヲ東京刑
事地方裁判所ニ送致同二十二日事件ヲ東京區裁判所發令局へ移
送ト同時ニ起訴同二十四日區裁判所元林判事ノ勾引狀ニ依リ身
柄ヲ東京拘置所ニ收容、爾來長井判事ノ下ニ於テ審理中五月三
十一日

一 言論出版集會結社等臨時取締法第十八條ヲ適用シ被告人ヲ

懲役四月ニ處ス、但シ未決勾留三十日通算ス

トノ判決言渡アリ本名ハ控訴スルコトヲ服罪、東京拘置所ニ於テ服役中ナリ

本名ハ大東亞戦争勃發直後ヨリ戦争完遂ノ爲メニハ政府ヲ支持
協力スルト共ニ時局便乗者ハ徹底的ニ之レヲ排撃スベシトノ持
論ヲ有シ、而シテ大政翼賛會ヲ目シ

「其ノ指導者ハ舊政黨人又ハ舊官僚ニシテ之レ等徒輩ハ巧ニ
時局ニ便乗シ翼賛運動ノ美名ニ隠レ自己ノ立身榮達ヲ圖リ或
ハ政權欲ノ爲メニ翼政ヲシテ一國一黨的存在化センメント策

動シツ、アリ

戦争完遂上障害ヲ來スベキ有害無益ノ存在ナリ

ト斷ジ之レガ徹底排撃ノ要アルヲ痛感

客年十月頃ヨリハ潰滅セシムコトヲ期シ手段方法ニ關シ研

究ノ結果

「翼賛會幹部ヲ傷害シ依テ會ニ反答ノ機会ヲ與ヘ潰滅ニ導ク

ト決意スルニ至リ同派ヲ併合

御植整々生 四谷内 正平

ヲ得タル七西谷内ガ本年一月徴用ノ爲メ尋出セシ爲メ其ノ事
ク已ミタリ
其ノ後七曾ヲ潰滅セシムルノ希望ヲ捨テズ三月四日

廻町區置ケ關一丁目所在

大政翼賛會

正門前ニ至リ「大政翼賛會」ト墨書セル看板ヲ取り外シ

廻町區内幸町二ノ二商工ビル内

大日本一新會本部事務所

ニ増ギ込ミ「大政翼賛會」ノ文字ヲ墨汁ヲ以テ抹消其ノ裏面ニ

「政體亡者ノ巢窟

即刻無條件解散せよ！皇民有志」

ト墨書シタル上再ビ携行元ノ場所ニ掛ケ置キタルモノアリ

①元國民同盟幹部ノ不徳文書臨時取締法違反被疑事件

本籍 福岡縣大牟田市字上内一六三〇戸主

住居 東京都赤坂區青山南町六ノ四五

元國民進黨同盟理事

著述業 西山 暢造

右者本年六月二十五日

八月生當五十七年

「五箇條ノ御誓文」

ト題スル文書ヲ作成一官房次郎名ヲ以ツテ皇臣樞密顧問官、衆議院議員等約百名ニ對シ郵送セラルル檢舉（七月一日）取調人上不穩文書臨時取締法第一條違反トシテ七月十七日一件記録ヲ東京刑事地方裁判所檢事局ニ送致セルガ身柄ハ猶當廳ニ拘束中ナリ

本名ハ從來要路顯官等政治的意見ヲ進言シ來リタルモノナリ處昭和十六年十一月頃京條首相ガ本名ノ面會ヲ謝絶セルヲ痛憤シ且ツ同十七年四月施行ノ衆議院議員總選舉ニ非推薦ニ立候補落選スルヤ政府ノ起不儘ナル選舉干涉ノ致ス所ト爲シ更ニ其政會ノ結成セラル、ヤ京條首相ヲ目シ「非立憲的獨裁

者アリト断ジ

而シテ現下ノ國情ハ民心萎靡沈滞シ戦力ハ増強セラレズ戦局ハ愈々緊迫シ「アイバン」玉碎ノ如キ重大局面ニ當面セルガ之レ皆五箇條ノ御誓文又ニ相背馳セル東條内閣ノ幕府的獨善主義ノ齎セル結果アリ故ニ「東條ハ空シク桂冠スベシ」トノ結論ニ頓達斯クテ東條内閣ノ批政ヲ恭臨シ政界上層部ノ東條權ヲ改メシメ桂冠ノ速カヲランコトヲ期シ五箇條ノ御誓文ヲ改定

「五箇條ノ御誓文」

一強ク曾諒ヲ否定シ萬機衆議院裁ニ決スベシ

二上下心ヲ別ニシテ大ニ經綸ヲ失フベシ

三官武一途庶民ニ至ルマテ其ノ極ニ達セシムルヲ要ス

四舊來ノ良風ヲ儆リ天地ノ胡道ニ基クベシ

五智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ損フベシ

儼我國未曾有ノ變更ヲアサントシ躬ヲ以テ衆ニ先ンジ天地神明ニ誓ヒ斯國是ヲ定メ萬民失意ヲ遂ヲ立テントス、衆亦此旨趣ニ

基キ協心努力セヨ

官僚獨善派總裁

東條

英

機

内閣大臣

アル文書ヲ作成

激テヨリ其ノ政治的主張ニ於テ自己ノ信念ト相通ズルモノアリト
私力ニ共鳴シ居リタル

遊谷區青葉町二一

一 官 房次郎

ノ住所偽名ヲ濫用シ

西臣（岡田、阿部ハ東條ト相通ズル者アリトシテ除ク）

樞密顧問官（皇族ヲ除ク）

衆議院議員（反輿政ノ立場ニアリト信ズル者）

其他合計約百名ニ對シ郵送セルモノアリ

2 公判關係

(A) 所謂平沼國務相狙擊事件公判

日獨伊三國軍事同盟締結當時ニ於テ政府ガ米英トノ決戰ヲ回避シ却テ屈辱的ナル條件ノ下ニ米英トノ間ニ妥協ヲ策セムトシタルハ明カニ國內親英米塊狀維持努力ヲ代表スル平沼男ノ策謀ニ依ルセムトシテ其行爲ハ三國軍事同盟締結ニ賜リタル詔勅ヨリシテ運動行爲デアリ政府ヲシテ即時武力南進ヲ斷行シ米英決戰ノ政策ヲ決定セシメムガ爲ニモ亦臣道實踐上ヨリ考察スルモ平沼男ヲ擅サザル可カラズト爲シ昭和十六年八月十四日拳銃ヲ以ツテ狙撃シ被害セムトシタル被害

元勳皇まことむすび運動指導者

| | | |
|-----|---|-------|
| 片岡 | 駿 | 當四十一年 |
| 中村 | 武 | 當三十四年 |
| 西山 | 直 | 當三十七年 |
| 同會員 | | |

(元帥職)